

八王子、多摩の食文化について

講師：「ふるさとの食を拓く会」代表 星野 厚子氏
司会者：佐々木 研吾

講師略歴：平成17年3月まで約40年間、戸板女子短期大学食物栄養科で助教授、教授として教鞭をとり、専門の栄養学各論、食生活論を論述された。平成16年4月に「ふるさとの食を拓く会」を創設し代表に就任された。食と人間とのかかわりを、文化的視点から見直すことを提唱している。学会および多方面における功績により「栄養士養成功労賞」「国民栄養改善功労賞」を受賞。現在、活発な講演活動を行っている。

配布資料：1)「八王子、多摩の食文化について」のレジメ
2)多摩水田地帯の年間の食生活暦

大学を定年退職してから、食物栄養家として何を市民の方々に広報しようかと思っていました。過日、保健所の栄養士の方から、市民の中にはお年寄りが大勢いらして、10年前に比べたら、3倍、4倍の生活習慣病の方が増えていると伺いました。地域活性化の為には、八王子に病人は増えて欲しくないのです。私は管理栄養士でもあるので、市民の方に、食のことにに関して啓蒙運動をしていこうと思っていましたところ、「地域活性化研究会」と言うボランティアの会から、地域の為に何かやって欲しいとのお話があり、子供と大人の食育をしようと活動しておりました。そして去年の4月に独立して「ふるさとの食を拓く会」を立ち上げ活動を始めました。

今日は何をお話ししようかと考えていましたが、プロバスの会長さんから「八王子、多摩の食文化について」ではどうかとお話がありました。

ところで「スローフード」と言う言葉をご存知でしょうか？ 1975年にイタリアの田舎から「スローフード」と言う言葉が発生して来ました。今、マクドナルドなどの「ファーストフード」が世界を走り回っています。私はおよそ20年間、アジアの食事文化を研究しており、イランの西の方から始め、アジアの大部分を回り、民族と食文化を調べ歩きました。4年前に韓国の宮廷料理についての研究発表を学会誌にも載せました。去年から韓流が盛んになり宮廷料理がテレビでも放映されるようになりました。日本にも同じような宮廷料理、天皇陛下の料理があります。和食を分析しても韓国に負けないほどの食文化が日本にあります。このようなことを皆さんに啓蒙することが大事だと思い、3年前から、地域活性化研究会の方と一緒に、全国一の長寿の村、山梨県上野原桐原（ゆずりはら）を調査したところ、10年ほど前から子供たちがファーストフードに走り、短命の村になっていました。やはりスローフードが大事だと思います。もし、この会場に、生活習慣病でコレステロールが高い、中性脂肪が高い、血圧が高くて困っている人がいたら、是非ふるさとの食の会に入ってもらい、健康管理のための勉強をして貰いたい。おいしいものをたくさん食べて短命になって、早くお亡くなりになるのも一つかなとは思いますが、やはり保健所の石田先生が言われたように、動くとか、頭を使うとか、転ばないようにするとかが必要。昔の人はよく動きました。今の若い人達、40代の人達は人生50年でしょうと言われていました。この会場の皆様は、戦前生まれの方が多くと思います。今日の演題「八王子、多摩の食文化」についてお話させていただいて、もし間違っている所があれば、ご指導いただきたいと思っております。

レジメにも書いておきましたが、スローフードのほかに「スローライフ」と言うものもあります。皆さん定年になってスローライフで何をやったらいいかわからないという方もいらっしゃるかと思いますが、ゆっくりと焦らずに自分の生活をエンジョイしましょうということなのです。その為には「地産地消」と言う言葉があります。地域でなにかを作って、それをみんなで食べることです。農作物は何度でも作れますよ、ということを提唱しています。小さなことでいいからみんなで地産地消を実行してもらいたいと思っています。

山梨県の長寿の村、桐原でも、1990年頃からそれまで少なかった「逆さ仏」現象が目立つようになりました。「逆さ仏」とは、年寄りを置いて息子、娘達が先に仏様になってしまうことを言います。年寄りだけが残されてしまうのです。沖縄も長寿で知られていますが、そちらもしかりです。このように長寿が少なくなってきた。働き盛りの中年層には成人病による脂肪が増えてきている。原因は食生活の近代化がもたらした落とし穴にある、地域の伝統食を失ったことにあるのです。しからば、八王子、多摩にどのような伝統料理があるのか。八王子で生まれ育った人、歴史家の方々や市役所の人に「八王子の伝統料理は何ですか？」とお尋ねしても「さあ」と言う返事で、では「伝統食品は何ですか？」と尋ねると、かつて「高倉大根」があったが、これももう栽培しなくなっているとのことでした。若い人達はみなサラリーマンになって、農業を継ぐ人がいないので、これも消えてしまったのです。八王子で採れる物を食

べているのが一番いいのですが、いまは色々な輸入食品が入ってきています。中国からの野菜をスーパーで買い、安全かな、薬品はついていないかな、と考えながら食べていたら精神的に良くない、従って安心して食べられる食事は何なのかということから、話を進めたいと思います。

星野先生は、ここから先の多摩の食の説明には、OHPを使ってプレゼンテーションをされた。

八王子、多摩の食文化と言うことですが、日常の食生活から生まれた食文化を対象にお話したいと思います。まず、八王子・多摩の環境を見てみたい。

八王子地域は、関東山地から東に延びる丘陵に囲まれた盆地で、丘陵に沿って西から東に浅川とその支流が貫流している。このため耕地は谷間や丘に沿う湿地帯に僅かな田んぼを耕作して、盆地を巡る台地や丘陵は畑地としていた。田と畑の比率は1対4といわれ、特に山間地の恩方や浅川地区では畑の面積が多くなっている。この耕地の割合は、土地に住む庶民の生活に大きな影響を与えていた。多摩の村々は丘陵の中であって多摩川の支流、浅川の恵みを受けて暮らしていた。耕地には川に沿って開けていて灰色の土地は雑木林となっている。日野は甲州街道に沿って江戸時代から開けたところで、近隣には八王子があり、織物産地、製糸工場をひかえて養蚕が盛んに行われていた。馬か牛を飼っている家では、水田のあらおこし、下肥の汲み取り、山仕事などに使っていた。以上が多摩の置かれていた環境です。

八王子の食文化は、八王子が製糸などの商工の町であったので、津久井、相模、藤野から、かなりの働き手が入ってきていたので、そちらの食文化がかなり入っています。どんなものを食べていたかと言うと、主食として、米、麦、あわ、稗、蕎麦など。麦は水車で挽き、更に石臼であら挽きした。これを「挽きわり」とよび、通常は米3合に挽き割り7合で炊いた飯を、日常食としていた。今の時代から見るとすごい健康食である。ここまで麦を混ぜなくても、反対にして米を7、麦を3、で生活していると、体が変わって行く。山間部では麦100%が主食でした。米、麦、あわを混ぜて炊いた飯を三色飯と呼んでいた。稗はしまって置き飢饉の時に食べた。代用食に挽きわり麦を作るときに出る麦の粉を団子にして食べた。もう一つの主食はいも類で、えごいも、さつま芋、やつがしら、里芋。さつま芋は乾燥し粉にして、さつま団子にして食べた。副食の材料は畑で採れた、大根、人参、ごぼう、里芋、なす、さつま芋、きゅうり、さんとう菜等。その他、豆腐、油揚げ、こんにゃく等。魚類はいわしの丸干し、目刺、干物、塩鮭、塩鱒など。三度の食事は、味噌汁、野菜の煮つけと漬物が主流であった。調味料としては、塩、味噌、醤油、砂糖で、味噌は自家製。大豆や麦を使い、恩方地区は麦1斗に対し、大豆1斗、塩1斗ので、都会に比べると甘口の味付けであった。味噌汁には粒の味噌で、すり鉢で搗るか、味噌こしざるで漉して使っていた。食事の回数は、朝飯、昼飯、夜飯(よめし)、1日3回。間食は、午前10時、午後3時の2回。3時は、昔は彼岸から彼岸までの間だけ「おこじゅう」と言っていたが、今は3時のおやつを1年中いただく。私は「おこじゅう」と言わずに、「小昼(こびる)」という名前で行っているが、地域が違えば呼び名が違う。さつま団子がよく「おこじゅう」で食べられていた。

以下の項目について個別の詳細説明があった

1. 多摩、八王子の四季の食生活

1. 冬・春・夏・秋の日常食

冬は農作業が終わって食べ物作り。朝食は麦飯(米1升におし麦を2割入れる)、小松菜の味噌汁(小松菜、大根、ねぎ、里芋入りおみおつけ)、漬物(白菜、沢庵)。昼は麦飯、焼き目刺、漬物。「おこじゅう」は「たらしやき」。夜は温かい手打ち煮込みうどん。夜食は焼きさつま芋、蕎麦がき。

春は重労働の季節で、朝食は麦飯、大根の味噌汁、大根おろし、白菜漬、茄子の味噌漬。昼飯は麦飯、焼いた鮭、たくあん、きゃらぶき。おこじゅうには花草団子(よもぎ団子)、にぎり飯(味噌をつけて焼いたおにぎり)、たくあん、梅干。夕食は煮込みうどん、ごぼうのきんぴら。

夏は、朝食に麦飯、味噌汁、きゅうりの糠漬け、お茶うけに酒饅頭。昼は麦飯、ひりゅうず(がんもどき)、里芋の煮付け、胡瓜もみ、茄子の糠漬け。おこじゅうに素麺。夕食は麦飯、鮎の塩焼き、蛸汁、茄子の糠漬け。

秋は、朝食に麦飯、里芋の味噌汁、たくあん、蒸したさつま芋。昼飯は、麦飯、人参とごぼうの煮付け、茄子の糠漬け。おこじゅうに茹でとうもろこし、茹でまんじゅう、漬物。夕食に小豆の飯、鮎の煮付け、豆腐のすまし汁、小松菜の胡麻和え、胡瓜の糠漬け。

2. 晴れ食・行事食

1月のおせち料理、七草粥から始まって、12月の年越し蕎麦まで、配布された「年間の食生活暦」に詳述されている。

II. 基本食

1. 基本食の成り立ちと料理の手法

2. 米
3. 大麦・小麦
4. そば、あわ、稗
5. いも類
6. 大豆、あずき、その他の豆

. 季節素材の利用法

1. 野菜
2. 山菜・野菜
3. 川や田んぼの魚介類
4. 海の魚
5. 肉・卵・昆虫
6. 果物・木の実

. 伝承される味覚

7. 味噌
8. 醤油
9. 漬け物

以上、星野先生は、都市型の近代食に対する警鐘を鳴らし、戦前の食事への回帰を提唱され、およそ2時間に亘り熱弁を振るわれた。最後に、星野先生が代表を務めている、「NPO・ふるさとの食を拓く会」の活動に関する質問があり、副代表である八木プロバス会員から内容の説明があった。続いて一般の質疑応答があって終了した。

(記録 矢崎 安弘)

郷土の文化財あれこれ - 八王子車人形を中心に -

講 師：八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部次長
兼文化財課長（八王子市郷土資料館長）

佐藤 広

司 会 者：大野 聖二

講師略歴：

八王子市街地の歴史の始まりは、加住の滝山城（武蔵国守護代大石氏）の城下町として街が生まれてきたのが最初とされている。その後、室町時代の終わり頃、戦国時代に新しく大きな城として築かれたのが八王子城（小田原北条の支城、城主北条氏照）であり、その城下町として街作りされた（現在の元八王子地区）。八王子城落城後（北条一族滅亡）、天正 18 年以後徳川時代、大久保石見守長安が都市計画をして、街囲いを築いて甲州街道を作り、区画（間口 4 間×36 間）を割付して町並みを作り、八王子の街の 400 年以上の歴史を作ってきたのである。八王子は江戸時代から成熟した宿場町として発展してきた。多摩地区では他に無い大きな都市的機能と産業・サービスを持ち、独特な文化が育まれてきたのである。そして周辺に寺を作り、武家、千人同心の御頭衆を配置し、城、宿場を守ってきたのである（今の千人町周辺が武家屋敷であった）。

八王子まつりには彫刻の施された山車が出る。夏まつりは都市的な祭りを意味し、人の多く集まる処に「はやり病」が流行するのは“怨霊・たたり”によるものと考えられて、当時はそれを治める為に行われたそうで、農村部のまつりは収穫的な祭りであり、秋のまつりである。

八王子市では山の文化があり、江戸時代は炭燃料が多く出荷され（陣馬高原方面や津久井地域）、境界争い等で山争いが多く起こった。一方、柏の葉が採集され浅川の柏の市で売買され、東京へ大量に出荷された。恩方地区は養蚕が盛んで、投資的に大規模飼育され地域産業として出荷された（企業精神があった）。宇津貫周辺では目籠（手の技・細工物）作りが盛んで大正-昭和-終戦後、東京・横浜・静岡に出荷された。日野・稲城・町田地区で一つの産業として大量生産された。

八王子の名前の起こりは、八王子城に北条氏照が城主として入って来る以前から祭られていた八王子権現は（神と仏が一体になった神体）の守り神として平安時代に造られた時に由縁している。

八王子の文化財は今危険な時代に入って、寺院等の放火・盗難が多く防護が必要になっている為、自由に参詣が出来にくくなってきた。獅子舞は江戸時代、一村がまとまっていく為に奨励された。加住・川口・美山・今熊・小津・狭間・高尾・氷川の八箇所が伝承され、地域で守られている。

山車は財力が必要で、現在では何千万も制作費がかかるとのこと。南町の山車が一番古い。多賀神社の御輿（千貫）も市の文化財になっている。八王子車人形の発祥は江戸時代の終わり頃飯能市に生まれ、初代西川古柳が考案し、その後農山村を中心とした娯楽として親しまれてきた。東京都無形文化財として、奥多摩に川野車人形が伝承されており、埼玉三芳町にも竹間沢車人形として残されている。

八王子にはもう一つ、秋間（西川車人形）も伝承されていた。八王子車人形は、平音次郎・坪内逍遙・三田村鳶魚（江戸研究家）らの熱心な力添えにより中央に広まり有名になっていった。

「八王子車人形」は市による行政支援として年 1 回の公演が 10 年以上行われており、後援会も発足し、NHK ドキュメンタリー番組でも紹介されている。現在の八王子車人形は、35 年をかけて芸能文化として磨かれたものであり、地域の伝承文化としてこれからも引き続き継承していく為に、皆様からいろいろ

なご支援を頂きたい。

伝統芸能を広める仕事に携わる者として、古いものをただ化石のように無事に残すのではなく、時代時代の息吹を取り込んだ取り扱いが重要であり、古典的な守りの気持ちだけでは存続を望むことすら難しく、三十数年かけて努力を重ねて認知を得てきた。車人形にかかわる仕事を始めた初期のころの公演には集まる人が非常に少なかった。

文化を継承していく為の新しい取り組みとして、4年前から後継者育成講座を設けていて、第一期生から2名の後継者が出ている。行政の活動の中で、地域がいきいきと活性化するために、八王子のアピールに役立つ素材として、文化芸能を育てて行きたい。プロバスクラブでも、ぜひ八王子をアピールした地域活性化や企業育成を目指した活動を、会員の皆様が年齢に関係なく元気に活躍される様期待している。

(記録 小林 時雄)

「実演」

東京都無形民俗文化財指定

八王子車人形 「寿式三番叟」

内容は五穀豊穡を祈るおめでたい芸

出演： 西川古柳座 西川 柳起

西川 柳真

西川 ^{りゅうすず}柳澄之（女性）

八王子車人形は伝統的な人形芝居を、様々な工夫を凝らして、日本各地はもちろん、諸外国でも公演を行い活躍している。

（記録 小林 時雄）

デジタルカメラを使いこなすには

話をする人：Part I 下山 邦夫
Part II 武田 洋一郎

話をする人：(下山) 長年に亘ってオリンパス光学でカメラの開発設計に従事していた。学習サロンでは、過去「全自動カメラの上手な撮り方」、「デジカメで綺麗に撮るには」と2回話し手を勤めてきた。

(武田) NECで産業・社会システムの開発設計に従事していた。ボランティアでおもちの病院ドクター、当クラブではホームページの担当をしている。

話し手の挨拶の後、前半はカメラについて下山が、後半はパソコンでの処理について武田が担当して進め、その内容をスクリーンで紹介した。

Part I | カメラの使い方

下記の10のテーマを用意された。

構図について パースペクティブについて シャッターチャンス 立体感を出すには
影の問題 色の問題 花を綺麗に撮る 小物をきれいに撮る デジカメの利点を活かす
デジカメの用語
時間の関係で全ての話は出来ないで、どのテーマを聞きたいか要望を聞き、その結果、
、のテーマが選ばれた。

1 構図について：

写真を撮るハートを大切にすべきである。最も写したい主題を大切にすることが、構図よりも重要と強調された。資料が配られ、横位置、縦位置の特徴、構図の考え方について説明があり、構図作例、ズームレンズ効果作例など、スクリーンでの説明がなされた。

2 シャッターチャンスについて：

どんどん撮ること、お孫さんを撮るには、好きな事に熱中している時などが良い。日頃、いつでも撮る態勢でいること事が第一。但し、速い動きのものでシャッターチャンスを逃がさないためには、テクニックとして、デジカメでは置きピンや連写をやるとよい。その実例が示された。

3 花を綺麗に撮る：

会場に仮設された撮影現場で、窓際に置かれた花を想定して、撮影する実験を行った。用意したライティングに加え、室内灯を消せないために、光が赤いのでホワイトバランスを取り直したり、明るさを変えたりしながら撮影され、写された画像をスクリーン上で見ながら説明された。サイドライトで撮影が良い。但し、影側をレフやフラッシュで起こすこと、ホワイトバランスをしっかりとることが大切。

4 デジカメの利点と用語：

大切なものをピックアップして説明された。その一つは**ヒストグラム**。これは撮った写真の出来を直ぐ見られるので、覚えて使うと良い。白とびし易いことがデジカメの欠点だが、それがすぐ分かる。グラフの白側、暗部側に両端どちらかが切れてしまてはいけない、と憶えると良い。**ホワイトバランス**も覚えておいて欲しい用語だが、先ほどの実例で説明済みなので省略された。用語の解説資料が配られ、その中で聞きなれない言葉、DCF, DPOF, JPEG, RAW, PICT BRIDGE等の解説が加えられた。

コーヒーを頂きながら、サロン受講者のお一人、田中秀美さんが北海道旅行の際撮影したデジカメ画像を、BGM入りのスライドショーに仕立てた創作作品があるので、これを上映・鑑賞させてもらった。

追加の説明として、デジカメにはシーンモードがあるので、これを活用すると良い。例えばオートのまま夕方を映すと昼のようになる。夕方モードがあると夕方のように写る。作例を挙げて説明された。夕方モードが無い時は、オートを外しホワイトバランスは日中とし、やや暗く撮るなどをする。フィルムではその結果はわからないが、デジカメではすぐ見られるのでそのようなテクニックが試せる。その後は武田にバトンタッチされた。

(記録 下山 邦夫)

Part 写真の修整

デジタルカメラでの撮影が終わって、最終的に写真出力、即ち、プリントしてみるわけだが、どのような目的かで、処理や加工方法が異なってくる。今回は、パソコンで処理する方法として、「フォトショップ 3.0」という画像処理ソフトを使って、写真を修整する方法の解説と実際の処理操作があった。

1 パソコンに画像を取り込む方法

・ケーブルを用いて USB 接続で使う。

最も簡単な方法で、パソコンから見るとメモリーが追加された形なので、フォルダー操作ができる。

・メディアをパソコンに挿入する。

撮影データは、メモリーカードに保存されるが、それを取り出してパソコンに挿入する。いろいろな種類のカードがあるので、パソコンにカードのロットが用意されていない場合は、別にカードリーダーを用意する必要がある。

2 写真の修整

ここから、パソコンとプロジェクターを使って、実際に画像を補正したり、修整・加工したりする手順について、配布資料と実演により説明があった。

配布資料にある項目の順番に、作例をもとにして修整・加工処理が行われた。

明るさやコントラストの最適化

色調の補正

鮮明さの補正

以上の3項目は、ソフトによりワンタッチで自動的に最適な状態に補正することができるし、またマニュアルで微調整や自分の好みの色合いにすることもできる。

不要部分の切り抜き

4人並んでいる記念写真を、2人のツーショットにして1枚の写真に仕上げた。

赤目の修正

ストロボ撮影時、赤目になった部分を黒く修整できた。

逆光の修整

逆光で撮影してほとんど真っ黒で判別つかなかった銅像の写真が、この処理で、姿を現した。

ゴミを消す

画像に写っている不要な電線や、クレーン、ポールなどを消去することができた。

ピンボケの修整

顔の輪郭などが微妙ではあるがはっきりとなるようになった。

傾きの修正

建物が曲がって写っていた写真を回転することにより、水平を出すことができた。

画像のステレオ合成

4枚の風景写真を合成してパノラマ写真を作った。このように複数の写真を簡単に合成することもデジタルならではのものだと思う

画像の切り抜き合成

人物の写った写真から人物だけを切り出し、別の写真に貼り付けして、あたかもその場所にいたというように合成することができた。

後半の1時間での解説だったので、十分に消化できたわけではないが、手がかりは得られたと思う。

以上のカメラの使い方や画像の処理方法を基本にして、更に、応用を深め高度な使い方をマスターするようにしたいものである。写真は人に見せて楽しみたいもの、だからそれなりに修整や加工を加えて喜ばれるような写真づくりを心がけたいものだ。

(記録 武田 洋一郎)

戊辰戦争と八王子千人同心

話をする人：野口 正久
司会者：浅川 文夫

話をする人：地方史研究家、八王子千人同心旧交会会長、元八王子市郷土資料館運営協議会会長、八王子文化財審議委員、八王子市元八王子中・二中・七中の各校長を歴任、元八王子市立中学校長会会長

講演に先立ち自己紹介の後、配布された詳細なレジメ・資料に基づき、また随所に逸話(*)を加え、以下の如き要旨の講演が行われた。

はじめに、戊辰戦争とは慶応4年鳥羽伏見で起こった戦いのみが戊辰戦争と言うイメージがあるが、鳥羽伏見の戦いから、榎本軍が函館五稜郭に立て籠もり明治2年まで続き、五稜郭の榎本軍が開城降伏し、ここに戊辰戦争は終結する。江戸幕府瓦解する。(*)八王子同心の身分、村と千人町支配の違い、給料の受け取り等。

I. 戊辰戦争前の動向

1. 公武合体

幕府の勢力が衰え、天皇家と婚姻関係を結ぶことにより、幕府の体制を取り戻そうとした。将軍家、徳川家茂公に皇女和宮様の降下を願う。

(*)皇女和宮、将軍家下降時の木版画、京都からの女中名簿、江戸城に雇われた多摩の女中達の話。

2. 将軍家茂公度々の上洛

将軍家茂公は度々の上洛で幕府の権威を保とうとした。この将軍上洛の折には、八王子千人同心が護衛としてお供した。

(*)長柄方、砲術方の話、江川太郎左衛門は早くから西洋式鉄砲を購入、訓練に励んだ。

3. 諸戦闘集団の成立

八王子千人同心の変容

八王子千人同心の祖先は武田信玄の下で「小人組」と言った。武田氏滅亡の後、徳川家康公に仕え、初めは老中支配下にあったが、鎗奉行の創設によりその配下に配属された。その後、幕府組織などの改革に伴い、講武所奉行の支配、陸軍奉行支配となる。陸軍奉行支配の時、千人同心隊となる。この頃から戦闘の方法とか装備が変わってき、武器も刀から鉄砲に、戦闘も個人から集団に変わってくる。

(*)支配奉行の変遷、唐人参事件の話、千人隊と砲術訓練、農民の鹿・猪退治に必要であった。

浪士隊の募集

江戸に脱藩した浪士が集まるようになり、この対策として幕府は、文久3年清川八郎などが浪士隊を組織し、将軍上洛時の警護をさせる。この浪士隊はその後、新選組に発展する。

(*)新撰組は京都市内警護・取締りで成果を挙げる。新選隊の選の字について。

農兵隊の成立

多摩の代官、江川太郎左衛門英敏が文久3年、村方の治安維持の為、農兵隊を設立する。農兵隊は浪人達の盗賊に対し村々を警護、武州一揆鎮圧に威力を発揮し、各名主の下に、日野、町田、東大和などで次々と結成された。

(*)モリソン号渡米に伴う外国船打ち払い令、反対(蛮社の獄)、千人同心組頭、松本斗機蔵の話、浪人達による盗賊の話、石川日記、千人同心の月番日記、武州困民党など。

4. 指導者の逝去

朝廷では、慶応2年12月25日、孝明天皇が逝去され、幕府側では慶応2年7月20日、徳川家茂公が亡くなり、慶喜公が将軍となる。このことにより、せっかく徳川家に皇女和宮を迎え実現した公武合体が、指導者の逝去により、朝廷と幕府の関係が悪化する。

5. 薩長同盟成立

このような状況の下、慶応2年、薩長同盟が成立し、その後、薩長土肥四藩の連合へと発展し、諸大名たちがこれの加担に傾いていく。

II. 諸戦闘集団の動向

1. 八王子千人同心

別途資料の幕末の千人同心出動年表による。文久3年から慶応3年の間の動向を説明。徳川家茂公の上洛に伴う出動から、相州萩野山中藩、陣屋焼打ちの武相賊徒取り押さえの為の出兵など。

2. 浪士組

別途資料の日野新選組年表による。文化10年から明治元年までの諸行動を記載した年表。

3. 農兵隊

農兵隊については、1の3の記載通り、浪人達による盗賊からの警護、武州一揆の鎮圧などに活躍した。

(*) 壺伊勢屋襲撃事件、沼謙吉著「明治維新と八王子」、東征軍板垣退助の写真、錦旗の御旗。

(休憩)

一般の参加者より、農兵隊設立後の浪士や困民党に関する被害などの話があった。

Q. 上野の彰義隊の戦いに千人隊の河野中次郎ほか192人が参加し処罰を受けたとあるが、その点は

A. 陸軍奉行多賀上総介が八王子に陸軍の役所を作るが、多賀上総介が江戸に帰るに従って、千人隊頭河野仲次郎、組頭日野信蔵が彰義隊戦に参加した疑いで、官軍に捕らえられ、甲府一連寺に1年半ほど幽閉され、明治2年11月に免罪となった。

Q. 錦の御旗は偽物であったか？

A. その通りです。明治天皇が幼少だったので、薩長の主導者が勝手に作ってしまった。戊辰戦争の本当の原因はなかなか掴めない。

Q. 五稜郭の戦いで、榎本軍が軍艦で函館を目指すが、江差沖で座礁し船が使用出来なくなったのを見て、新政府軍が押し寄せたと言うことか？

A. そうです。海軍がやられてしまったので。

III. 鳥羽伏見の戦

1. 幕府軍と薩長土肥

慶応4年1月に鳥羽伏見で起こった戊辰戦争において、幕府軍が破れ、徳川一門は賊軍、朝敵とみなされて、官位、領地を没収された。

2. 幕府軍

徳川慶喜公は国内の混乱を避ける為大政を奉還し、大阪城を出て、江戸城から上野東叡山大慈院に入り蟄居、恭順、謹慎をし、家臣たちにも恭順せよと命じた。徳川慶喜は、国内において大きな戦争が起きると、外国に利用され植民地化される恐れがあり、また焦土と化し庶民が困窮すると考えた。

(*) 将軍の甥子が二等兵、将軍コーヒー、明治維新後の慶喜公。

3. 四藩連合軍

薩長土肥の四藩連合軍は、錦旗の御旗を立て、江戸城攻略を目指し進軍する。

(*) 小倉での長州と幕府軍との戦い(千人同心も参加)、山口県資料館の話。

4. 東征軍

四藩連合、その他の藩の東征軍は、東海道、東山道、中仙道と3軍に別れ、有栖川宮親王を総大将として江戸に向かった。その中で東山道軍は中仙道を通り甲府、八王子に到着したのが、慶応4年3月10日であった。

5. 新選組

京都鳥羽伏見の戦いに敗れた新選組は、慶応4年1月江戸に帰り、甲陽鎮撫隊を結成し、甲府出撃を計る。その計画に、甲陽鎮撫隊から千人隊に同調を求めたが、千人隊は「上司からの命令が届いていない」と、これを断る。

(*) 河田左久馬について、池田屋事件の逃亡者か？、鎮撫隊と千人隊

1 勝沼戦争

甲陽鎮撫隊は斉藤一諾斎の道案内で、甲州柏尾山にて東征軍と戦うが、破れて江戸に敗走する。近藤勇、流山で捕われ板橋で処刑される。土方歳三は逃れ、会津で榎本武揚と合体し函館五稜郭に向かう。道案内をした斉藤一諾斎は、強瀬村全福寺の住職で、会津戦争に参加し、土方と分かれ八王子に帰り、柚木で亡くなる。この甲陽鎮撫隊が甲府で戦ったあたりから、八王子恩方の人で中島登という人が頭角を現し、土方と行動を共にし、函館五稜郭で捕われるが、戦友の絵を残す。

(*) 柏尾山の戦いとその始末記

2 歩兵第八連隊脱走

慶応3年閏4月、歩兵の一部が脱走して、八王子上野町辺りに集まった。八王子に来ていた陸軍奉行、多賀上総介がこれらを説得して、江戸に引き上げさせた。

3 甲州街道の様子

甲州柏尾山の戦いに敗れた甲陽鎮撫隊の残党は、八王子(途中、多賀神社で相談したと言う説もある)を通り江戸に向かい、その一部は上野の戦いに参加している。この後、東征軍が八王子に入ってくるわけだが、今日は時間の関係で、戊辰戦争の終結直前までの話で終わる。

(記録 近田 正人)

懐かしのミュージカル、この一曲

話をする人：平原 俊彦
司会者：岩岡 茂之

話をする人：八王子生れで八王子育ち。日本コロムビア(株)理事、洋楽部長、国際本部長等歴任。

今回は皆様ご存知の往年のミュージカルの中から、この一曲といわれるものを取りあげ、それをビデオで御披露しながら色々曲にまつわるお話をした。

ミュージカルの歴史はそれ程古いものではない。19世紀の後半ヨーロッパより多くのオペレッタがアメリカに輸入(興業)され、それをもとにアメリカ自身の作曲家が自分たちの音楽を作ることから始まった。当初はヨーロッパ亜流のものしか出来なかったが、エドナー・ファーパーの小説を元にオスカー・ハマースタイン(詞)、ジェローム・カーン(曲)が作った「ショーボート」には初めて本格的なストーリーが盛り込まれ、ここから真のミュージカルが始まりだと言われている。中でも「オールマン・リバー」の曲は大変有名である。

その後アメリカを代表する作曲家ジョージ・ガーシュインが出て名作「ポーギーとベス」のような傑作を作ったが、何と言ってもミュージカル史上最も偉大なコンビ作詞のオスカー・ハマースタイン、作曲のリチャード・ロジャースの誕生は特要すべきことだろう。「南太平洋」、「王様と私」、「サウンド・オブ・ミュージック」などが忘れがたい。その後「マイ・フェア・レディ」、「屋根の上のヴァイオリン弾き」、「キャバレー」などの素晴らしい作品がアメリカ、ブロードウェイから輩出する。

1970年代イギリス、ロンドンから作曲家アンドリュウ・ロイド・ウェバーが出てミュージカル界に革新をもたらす。最初の「ジーズ・クライスト・スーパースター」から始まり「エヴィータ」、「キャッツ」、「オペラ座の怪人」などミュージカルの世界を席捲した。アメリカでもその勢いに対抗して「レント」、「ライオン・キング」などをヒットさせ、映画の世界でも2002年に「シカゴ」がミュージカルでは久しぶりにアカデミー作品賞を得たことなどアメリカン・ミュージカルの復活とみてよいだろう。

	舞台	映画
1. 初期のミュージカル		
(1) ショーボート「オールマン・リバー」 「詞」オスカー・ハマースタイン 「曲」ジェローム・カーン	1927	1936
(2) 三文オペラ「モリタート」 「詞」ベルトイト・ブレヒト 「曲」クルト・ワイル	1928	1931
(3) ポーギーとベス 「サマータイム」 「詞」アイラ・ガーシュイン 「曲」ジョージ・ガーシュイン	1935	1945
(4) トップ・ハット 「頬よせて」 「詞」「曲」アービング・バーリン	-	1935
(5) オズの魔法使い 「虹のかなたに」 「詞」E.Y.ハーバーク 「曲」ハロルド・アーレン	-	1939
2. ブロードウェイの黄金時代		
(1) 南太平洋 「魅惑の宵」～「お話してね」 「詞」オスカー・ハマースタイン 「曲」リチャード・ロジャース	1949	1958
(2) 王様と私 「シャル・ウィ・ダンス」 「詞」オスカー・ハマースタイン 「曲」リチャード・ロジャース	1951	1956
(3) マイ・フェア・レディ 「スペインの雨」 「詞」A. J. ラーナー 「曲」フレデリック・ロウ	1957	1965
(4) サウンド・オブ・ミュージック「ドレミの歌」	1960	1965

「詞」オスカー・ハマースタイン 「曲」リチャード・ロジャース (5) 屋根の上のヴァイオリン弾き 「サンライズ・サンセット」	1965	1971
「詞」シェルダン・ハーニック 「曲」ジェリー・ボック (6) キャバレー 「キャバレー」	1967	1972
「詞」フレッド・エブ 「曲」ジョン・カンダー (7) シェルプールの雨傘 「シェルプールの雨傘」	1978	1964
「詞」ジャック・ドウミ 「曲」ミッシェル・ルグラン		
3. 新しい時代へ		
(1) ジーザス・クライスト・スーパースター「主題曲 同名」	1971	-
「詞」ティム・ライス 「曲」アンドリュー・R・ウェバー (2) エヴィータ 「アルゼンチンよ泣かないで」	1978	1997
「詞」ティム・ライス 「曲」アンドリュー・R・ウェバー (3) キャッツ 「メモリー」	1982	-
[詞] T.S. エリオット 「曲」アンドリュー・R・ウェバー (4) シカゴ 「オール・ザット・ジャズ」	-	2002
「詞」フレッド・エブ 「曲」ジョン・カンダー		

[当日演奏したミュージカル・ソングのリスト]

1. ショーボート; 「オールマン・リバー」
2. 三文オペラ; 「モリタート」
3. ポーギーとベス; 「サマー・タイム」
4. トップ・ハット; 「頬よせて」
5. オズの魔法使い; 「虹のかなたに」
6. 南太平洋; 「魅惑の宵」、「お話してね」
7. 王様と私; 「シャル・ウイ・ダンス」
8. マイ・フェア・レディ; 「スペインの雨」
9. サウンド・オブ・ミュージック; 「ドレミの歌」
10. 屋根の上のヴァイオリン弾き; 「サンライズ・サンセット」
11. キャバレー; 「キャバレー」
12. シェルプールの雨傘; 「シェルプールの雨傘」
13. ジーザス・クライスト・スーパースター; 「主題歌同名」
14. エヴィータ; 「アルゼンチンよ泣かないで」
15. キャッツ; 「メモリー」
16. シカゴ; 「オール・ザット・ジャズ」

(記録 平原 俊彦)

暮らしと経済

話をする人：佐々木研吾
司会者：濱野 幸雄

話をする人：秋田市出身。元日本銀行職員。本店のほか、秋田、札幌、小樽、金沢、盛岡に勤務、主として企画・調査部門や内部管理関係に従事。趣味は、地図を携えて山野や街を歩き回る自称「地理研究」。

1. 銀行券の改刷

2004年(平成16年)11月1日、20年ぶりに新様式の日本銀行券(千円券、五千円、壹万円券)が発行された。また、これに先立つ2000年7月19日には、弐千円券(守礼門の像)が新たに発行されている。

銀行券の人像は、文字どおり銀行券の顔であり、偽造防止の意図を含めて、国民によく知られ、親しまれた人物の肖像が選ばれる。戦後発行の銀行券には、聖徳太子を筆頭に、岩倉具視、伊藤博文、板垣退助、福沢諭吉、高橋是清、夏目漱石、新渡戸稲造らが登場した。今回は、千円券に野口英世、五千円券には初の女性像、樋口一葉が採用された(ただし、明治時代の政府紙幣に神功皇后の先例がある)。

改刷の主目的は、何とんでも偽造の防止である。わが国は、他の先進諸国に比べて偽造券は格段に少ないが、近年のコピー技術の高度化や多種多様な現金取扱機器の普及に伴い、精巧な偽造券の発見が急増している(警察庁「偽造通貨の発見枚数」、98年807枚 04年28,562枚)。新様式の銀行券は、こうした最近の偽造事件の特徴を検討し、パソコン関連機器による偽造を困難にする、現金取扱機器の検知能力の強化に資する、視覚による識別を容易にする、ことを主眼に、最新のハイテク技術を駆使して各種の偽造防止の工夫を施している。いくつかの具体例を壹万円券についてみると、次のとおりである。

ホログラム 角度を変えると、画像の色や模様に変化して見える。

すき入れパターン 光に透かすと、すき入れられた3本の縦棒が見える。

潜像模様 傾けると、表面左下に「10000」の文字が、裏面右上に「Nippon」の文字が浮かび上がる。

特殊発光インキ 表面の印章(日本銀行総裁印)に紫外線をあてるとオレンジ色に光り、地紋の一部が黄緑色に発光する。

2. 日本銀行の量的緩和政策

一般に、中央銀行の金融調節手段として、公定歩合操作、公開市場操作(オペレーション)および預金準備率操作はよく知られているが、2001年3月から日本銀行が採用している一段の金融緩和策「量的緩和措置」については、あまり知られていない。

これは、わが国経済が、それまでの度重なる景気支援策にもかかわらず、持続的な成長軌道に復せず、物価低下圧力も強まると懸念されたため、前例のない思い切った金融緩和に踏み切ったもので、金融市場調節の主たる目標を「金利(コールレート)」から「資金量(日銀当座預金残高)」に変更した。すなわち、日銀当座預金残高の誘導目標額を定め、目標額に達するまで、日銀はオペレーション等により円滑に資金を供給することとし、「消費者物価指数(生鮮食料品を除く)の前年比上昇率が、安定的にゼロ%以上となるまで継続する」とコミットした。目標額は、当初の5兆円から9回にわたって増額され、04年1月以降は、30~35兆円と、準備預金制度による所要準備額の約5倍に達している。政策波及の道筋としては、金融機関の手許資金が潤沢となり、金利が下がる、金融機関の貸出、有価証券投資が容易となり、その結果、企業の投資活動が活発になり、個人所得も増加し、消費が上向き、物価が下げ止まり(デフレからの脱却)、金融不安も収まる。こうしたプロセスを経て、経済全体が持続的な安定軌道に乗ることが期待される。

このような期待を踏まえ、最近の情勢をみると、次のような変化もみられるようになっている。

金融機関の不良債権問題は改善 大手7行の不良債権比率、02年3月8.4% 04年3月5.2%
05年3月4%台前半(見込み) 「金融再生プログラム」の公約(02年3月からの2年間で半減)の達成はほぼ確実。

手形、国債の買い入れ時に「札割れ」発生 日銀の買い入れ予定額に、応募額が達しないことがある。

一方、

消費者物価の動きをみると、マクロの需給環境は改善しつつあるが依然緩和基調にあり、小幅の低下が続いている 消費者物価指数(生鮮食品を除く)の前年比、01年度 0.8%、02年度 0.8%、03年度 0.2%、05年1月0.3%

ペイオフ完全実施(05年4月)後の金融システムの安定度を確認する必要がある。
という状況にあり、今後の運営が注目されることである。

3. ペイオフ完全実施

05年4月1日から、預金のペイオフ(Pay Off=清算する、完済する)が完全実施される。ペイオフとは、金融機関が破綻した場合、「預金の一定額を保護する」制度で、その概要は次のとおりである。金融機関が破綻した場合、金融業界全体で預金保険機構に積み立ててある資金で、預金者に次の金額を払い戻す。

一預金者、一金融機関(本支店間に分散預入している場合は名寄せ)当たり、元本1千万円までとその利息。

元本1千万円を超える部分は、破綻金融機関の残余財産の状況によって、払い戻し額が決まる(早期に払い戻しを受ける「概算払い制度」がある)。

制度対象金融機関 銀行(都銀、地銀、第二地銀、信託銀、長信銀)、信用金庫、信用組合、労働金庫

外国銀行支店は対象外。また、郵便貯金(現状、預入限度1千万円、元利とも政府保証)は、民営化後、預金保険機構に加入することとなっている。

制度対象金融商品 普通預金、定期預金、通知預金、納税準備預金、貯蓄預金、別段預金、掛金、元本補填契約のある金銭信託(貸付信託を含む)、金融債(保護預り専用商品)、これらの預金等を用いた積立・財形商品

対象外商品 外貨預金(ただし、残余財産に応じて払い戻す預金には算入)、譲渡性預金、元本補填契約のない金銭信託(ヒット、スーパーヒット等)

なお、4月から「決済用預金」(無利息、要求払い、資金決済専用)が設けられ、引き続き全額が保護される。従来からの当座預金に加え、個人向け預金の新設も予定されており、多額の公金預金を抱える地方公共団体やマンション管理組合等が利用すると思われる。

4. 郵政民営化

このところ郵政事業の民営化を巡って、民営化そのものの是非から民営化の態様、プロセスにいたるまで、各方面で様々な議論が活発に展開されている。今後、国会の審議も控えており、どのように落ち着くか全く予断を許さない。

そこで、ここでは、郵便貯金・簡易保険に絞り何が問題とされているかの紹介にとどめることとする。

なぜ「民営化」か 郵貯・簡保の現状・問題点

郵貯・簡保は、民間の貯金・保険の補完という本来の機能を超えて著しく巨大化し、民間との摩擦・競争が激化し、金融市場にも歪みを生じている。

郵貯・簡保資金約350兆円は、個人金融資産約1,400兆円のほぼ4分の1。

郵貯資金量(04.3)227兆円は、4大メガバンクの合計226兆円(みずほ・みずほコーポレート67、三井住友60、東京三菱51、UFJ48各兆円)に匹敵。

簡保資金量(04.3)118兆円は、生保大手4社(日本、第一、明治安田、住友)の合計に匹敵。

全国店舗数(04.3)、郵便局 24,715 銀行等 25,224 生保 15,232 農漁協 13,398

こうした巨大化は、元利支払の政府保証、商品設計の優遇、納税・預金保険料・株式配当の免除等数々の特典によるところが大きく、不公平な競争、民業圧迫を招いているほか、「見えない国民負担」に支えられているともいえる。

集められた資金は、政府系金融機関や公団・事業団等特殊法人への投融資(財政投融資)に向けられるほか、国債にも運用される。特殊法人の中には、非効率な運用や肥大化をきたしているものもある、とされる。

(記録 佐々木 研吾)

愛唱歌～人生の友達

話をする人：歌唱指導　：五十嵐　淳
 ピアノ伴奏：畑野かん奈
 司会者：立川富美代

話をする人：八王子市内小学校の音楽教師、八王子フィルハーモニー合唱団の常任指揮者、他にも男声合唱団、女声合唱団の指導者として活躍。プロバス学習サロンでは顔馴染みで参加者はファンとなっている。

ピアノ伴奏：八王子フィルハーモニー合唱団の常任伴奏ピアニスト、他にもピアノ演奏、合唱伴奏などで活躍。サロンでも顔馴染みである。

当日は丁度先生の学校の卒業式だった。～あなたの愛唱歌をあげて下さい、コーヒータイムの後に取り上げます～と言う和やかな司会の中で始まった。前半は各界 187 名の愛唱歌の集計参考資料を見てその人気の順を見ながら、歌ったりエピソードを語りながら進めていきますが、その前に毎回やっている絵本の歌による朗読をやりましょう。

- 「スイミン」 海の中の小魚の話先生の歌と畑野さんのピアノで感動的に聴いて参加者は音楽の世界に引きずり込まれた。続いて先生からそれぞれの歌のエピソードを聞きつつ次々と歌っていった。
- 「故郷」 歌い継ぎたい日本の愛唱歌の1位であり ～兎追いし～と皆で
- 「荒城の月」 この城は鶴ヶ城か岡山城か八王子城址でも良く似合うという話と共に先生のヴァイオリンと畑野さんのピアノによって
- 「赤とんぼ」 日本語のアクセントとメロディーについての山田耕作のエピソードと共に
- 「蛍の光」 世界で最も多く歌われるメロディー ハッピーバースデーについて第2位とか
- 「仰げば尊し」 最近卒業式でも歌わないし、教えない 日本の歌としては6/8拍子で珍しく良いメロディーで良い詩なのに
- 「朧月夜」 何処の地の情景にも良く似合う 故郷、紅葉と共に高野辰之の作詞が美しい
- 「冬景色」 美智子妃殿下が詩的には最も好きと推奨された、高野辰之作詞3曲と合わせて4曲の詩が良いと金田一春彦国語学教授も推奨されたとか

此処までが前半であった。

後半は参加者の愛唱歌を取り上げつつ進められた。

愛唱歌のエピソードを聞かせて下さいとの指名で

- 「勿忘草」 Hさんの思い出話
- 「七つの子」 Sさんの愛唱歌 七つの子と子守りのお兄さんの思い出
- 「我は海の子」 Uさん 高校時代男子の先輩が応援歌や道謡歌と教えてくれた思い出
- 「冬の星座」 Bさん スペイン出張中冬の満天の星を見ながら運転した思い出話
歌詞カードが無かったが先生のガイドで歌った

歌い疲れ無い様に、先生は好きな作曲家とその何曲かを紹介するコーナーを挿んでいるが今回はショパンから

- 「ノクターン」 畑野さんの名演奏を聞かせてもらった。グランドピアノを身近で聴き迫力あり絶大な拍手
- 「子犬のワルツ」会場の中からリクエストアンコールがあり、畑野さんが早速弾いて下さった。暗譜されているのだった。

- 「無法松の一生」司会の立川さんの思い出愛唱歌 意外や意外、イスタンブールでの思い出話
- 「埴生の宿」 Sさんの愛唱歌 映画（ビルマの縦琴）を思い出しながら

私たちの子供の頃ラジオから歌を聞いたが皆同じ曲を聴いたし、こうして皆で歌える愛唱歌がある。今は情報が沢山あり、今の子供たちにはそのような歌が無いかもしれない。又懐かしいだけでなく新しいもの、珍しいものも含め自分だけのMY愛唱歌をみつきたいですね Hさんの～「死んだ男の残した

もの」～武内徹(曲)、岸洋子(歌)のような、と先生の印象的な言葉を挿んで、最後に会場からのリクエストで歌った。

「知床旅情」 Hさんの白夜はビクヤかハクヤか、森繁のエピソードと共に 早春譜、モーツァルトの春の曲と3曲似たメロディーだとか

「椰子の実」 リクエストから 島崎藤村が柳田國男から椰子の実の話を聞いて作詩したとか。椰子の実によせて望郷の念が胸に迫る

「早春譜」 外国に行っても歌っても綺麗なメロディーと言われる

今年は日本の歌ばかりでしたがまた機会があったら別の角度から楽しみたいですねと、参加者の心がなごみ名残尽きない中で終えた。

(注)「 」内は歌ったり、聴いたりした曲

(記録 下山 邦夫)

昭和の八王子・「町」と「道」を探る

話をする人：石井 充
司会者：宮崎 浩平

話をする人：八王子生まれの八王子育ちで八王子の生き字引。終戦前に俊英の学ぶ陸軍幼年学校に学ぶ。横山町に在住、塗料商を営む。

配布資料：(1) レジメ (2) 大正期発行の「八王子町全図」(3) 文政3年(1820)発行の「八王子十五ヶ宿」(4) 市中心街の大正時代の略図

私の憧れの生活は落語に出てくる横丁の隠居である。昔は熊さん、八つつあんが意見を聞きに来たのだが、この頃は情報通になり、横丁の隠居の役割がなくなったようである。本日は「昭和の八王子」について話をします。

先ず、約200年前に発行された「八王子十五ヶ宿」と言う、「宿名」と「家数」が示されている絵図を参照し、「宿名」と現在の「町名」を照合した。「上野原」「上野町」「本宿」「本町」「久保」追分の先、日吉町辺り、「子安」現在の子安町プラス明神町あたりまでの広範囲、「横町」「大横町」「島坊」不明、「馬乗」馬を乗り継ぐバス停みたいな所で数箇所あった(寺町あたり、旭町あたり、南町あたり)。1戸当たり4～5人として、全体で数千人単位の人口であった。お寺が数多くあり松門寺、本立寺、天法寺、信松院など、このラインが、当時の八王子の南限と思われる。北限は絵図の「大キジ」と書いてある所、たぶん「大義寺」と思われる。

次に「八王子町全図」を見る。八王子が町から市になったのは大正6年。「八王子町」と書いてあるので、大正初期のものと考えてよい。現在の放射線道路を当てはめてみると、どのようになっていたかが良く分かる。「八王子停車場」の直ぐ上の「子安」から、左斜め上の「字南横町」の「字」の所へ結ぶ直線がそれである。二本線が甲州街道。この時点では八高線も京王線も無い。後に出来た京王電車の駅は「東八王子」といい、子安神社の鳥居の右側の所。「八王子停車場」の右の四角は機関車の「機関庫」。

次に街道を考える。橋と関係が深い。東のはずれの「大和田橋」を通っている「東京街道」、現在の甲州街道。次は「拝島街道」。点線が引かれているので、未だ「暁橋」が無かった。次は「浅川橋」を通る「青梅街道」。次は「萩原橋」を通る「五日市街道」。西のはずれの「水無瀬橋」。これが今もある五つの古い橋。「東京街道」「拝島街道」の呼び名は絶えている。

今も「通り」と呼ばれているものが何本かある。大通り、本町通り、富士見通り、キタ中通り、ミナミ中通り、新町通り、など。

「八王子町全図」で、第一小学校、第二小学校、尋常高等小学校と第三小学校を結ぶ円の中が旧八王子市。尋常高等小学校は7番目に出来た小学校で8年間通う。第四小学校以降はかなり新しい。戦後、大和田に第十小学校が出来、これがナンバースクールの最後。後は名前を付けた小学校。「八王子停車場」の右上に「府立織染学校」。これは八王子の先見性のある工業人が作った府立の学校で、色染科と紡織科があった。八王子工業高等学校の前身。更にその上方に「高等女学校」。府立第四高等女学校といい、東京府で四番目に出来た名門女学校で、現在の南多摩高校。

拝島街道の直ぐ右側にある、「ツツジ園」、地図下段にある「招魂場」(日露戦争戦死者の鎮魂碑)に言及。ところで「富士森公園」の「ふじ」をどう書くのか。今は富士山の「富士」と書くが、古いものに「藤」と書かれており、子供のころには大変立派な藤棚があった。想像するに、以前は「藤の森」といういたものが、いつの間にか「富士森」になったのではないかと思う。「尋常高等小学校」の直ぐ左側に「字フジミ町」があるが、子供のころ「富士見町」とよび、八王子で富士山が一番良く見えるところだった。以上で「みち」「場所」の話を終わる。

寺は原則的に引越しないので、場所は変わらない。よく引越するのは官公署。市役所は私の知っている範囲では、天神町にあったがその後再三引越した。

次に、八王子の商売を見てみる。八王子停車場の北へ上がった所、「アンマ横丁」の所が横山町のはずれで、現在の「ダイエー」がある所に、桶屋。隣は提灯や。その隣は蛇屋。大家さんを挟んで、歯医者。無くなった商売の第一は、女郎屋。第二は待合。遊郭(30軒、80～100人の遊女)の略図と、南町と中町の「待合」、いわゆる芸者町の略図あり。「若竹」「喜代川」は待合。中央にある「三業組合事務所」が、いわゆる「検番」。左隣は「一心亭本店」はトンカツなどを出す料理屋。その隣の「車宿 上総屋」は人力車屋で、もう一軒の車屋は武蔵屋。三業とは、料亭、芸者組合と待合(貸し座敷)。この略図にはおよそ40軒。待合は、初めての客、即ち、一元の客は入れない。1回目は馴染みの客に連れ

て行って貰わないと入れない。3～4日後、2度目に一人で行くのを「裏を返す」という。3回目になると「お馴染みさん」となる。盛んだったのは、歯医者、医者、薬屋。

中町の略図の上の方に「第三十六銀行」。これは八王子の資産家を発起人にした銀行で、左隣の「米屋呉服店」の主人、谷合弥七氏が初代頭取。右へ行って「米屋荒物店」は今でも営業中。更に右に行くと、角から二軒目の「伊勢屋呉服店」は和服専門店でも今でも営業中。裏に回って「北村法律事務所」「神宮写真館」も盛業中。道路の反対側には今でもある「郵便局」。左へ行った所に「添田履物店」「中込鯉節店」「米屋洋品店」。「尚文館」は無くなった。路地を隔てて「森庄呉服店」。脇へ入って「福島履物店」。同じブロック内に「玉突 共遊軒」。有名な映画監督、斉藤耕一の実家である。中町には銭湯もあった。郵便局の右側の「川口紙文具店」は、八王子の名主。真ん中右の写真は、八王子のチンチン電車と言われた市電。上は浅川で水泳をする子供達の写真。ここで講演は一旦終わり質疑応答に入った。

質疑応答

- Q.(1) 八王子では「町」を「まち」と読んだり「ちょう」と読んだりしているが、何か基準があるのか？
- (2) 織染学校は、明治時代に谷合弥七と言う、神奈川県議も務めた人が作ったと聞いているが、正しいか？ 谷合弥七の顔写真の入った紙幣が発行されたと聞くが本当か？
- (3) 富士森公園に大久保長安が建てた浅間神社があるが、それで「富士森」にしたのだと思っ
ているが、どうか？
- A.(1) 「ちょう」と「まち」は語呂の問題だと思う
- (2) 谷合弥七は第三十六国立銀行の創主で、銀行の隣の「米屋呉服店」の旦那である。エルシーの隣の消防署が、三十六銀行の大横町支店であった。谷合氏は明治、大正、昭和初期にかけて、八王子商工会のリーダーだった人。八王子は当時、神奈川県で(神奈川県から東京府に編入されたのは明治26年) 県会議員となり議長も務めた。谷合弥七の顔写真入りの紙幣があったとは聞いたことが無い。
- (3) 富士森公園の浅間神社も富士講も承知している。昔から富士山を信仰する浅間信仰がある。富士森公園へ行くと富士塚があり、道路の正面に富士山が見える。昔は「富士」だったかも。だが印刷物に「藤」と書いてあるものがある。考え方の違いと言わざるを得ない。
- Q.(1) 現在の「高尾駅」は、昔「浅川駅」と呼ばれていた。変えた理由は？
- (2) 現在のJR八王子駅は、昔の駅から東へ寄せたのだが、どうして京王八王子駅とドッキングさせなかったのか？
- A.(1) 私の子供の頃、「よせ！やめて！」というと、「与瀬は浅川の先」と受ける、子供の言葉遊びがあった。「浅川」は八王子ではなく、独立した自治体の「浅川町」であった為、「浅川駅」と呼んだと思う。昭和34年(1959)に八王子市と合併、「高尾町」となった。駅名が「高尾駅」になったのは昭和36年(1961)3月。
- (2) 八王子駅は今の多摩相互病院の場所にあった。駅前の区画整理で放射線道路が出来、駅は東へ移った。京王の駅は、甲州街道沿いの船森公園の辺りに、小さな「東八王子駅」が在った。それが南に移動し京王八王子駅となった。JR八王子駅は区画整理の為東へ寄せたので、京王に妥協したものではない。25～6年前に、JRと京王を一つにする運動があった。然し京王は他所でJRに線を入れたところ、JRに客を取られてしまったことがあり、線を入れにくい事情があった。それと、JR駅前が便利になると、横山町の商店街に影響を与えるので、市もあまり積極的にならなかった。
- Q. 京王が高尾へ線を延ばすとき、今の駅から浅川の川岸へ出て、川沿いに北上させ、八王子の交通が便利になるような計画があったようだが、それが潰れてしまったと聞くが、本当か？
- A. 本当です。
- Q. 「新町」の呼び名は、(しんまち)と(しんちょう) どちらが先か？
- A. 八王子では昔から(ちんちょう)と言っている。
- Q. 八王子には名門第四高女がある。東京府は、立川に府立二中を作ったが、そのとき八王子にも声がかかったと思うが、八王子に誘致する政治的動きは無かったのか？
- A. 明治30年頃、(府立二中の開校は明治32年)東京府が中学校を作ることになり、八王子も立川と共に名乗りを上げたが、立川が三多摩の中央なので、立川に取られてしまった。そこで、せめて高等女学校は八王子にということではないか。
- Q. 2～3年前に陸軍幼年学校(今の長房町)の話聞いたが、聞いたことのない方もいるので、お聞きしたい。

A . “ 偉い人（軍人）” を大勢輩出している。学校としては大変内容がいい学校。戦争中にずっとフランス語をやっていた。学年は中学2年から5年までだから、そんな子供にフランス語を教えた。英語はやらない。空襲で丸焼けになったが、食料は最後まで潤沢であった。教官が北海道とか山形とか地方へ行くと、顔が利いて米とか鮭などを貨車で送らせた。焼けてからもひもじい思いをしたことが無い。これが物理的にいい学校。

Q . 幼年学校は全国でいくつあったのか？

A . 6校。仙台、東京、名古屋、大阪、広島、熊本。途中で辞めた所もあり、最低のときは、全国で3校、生徒150人くらい。終戦の時は6校で800人位。

以後、いくつもの活発な質疑応答が続いたが、盛況裡にサロンを終了した。

（記録 矢崎安弘）

美術あれこれ談話

話をする人：岩岡 茂之
司 会 者：吉田 信夫

話をする人：学生時代は慶應義塾大学の野球部のマネージャー。その後、東急百貨店の美術部門を長く経験した。現在はハワイアンバンド、“アナカラ・ハワイアンズ”を結成して演奏活動を行っている。

前回まで行ってきた裏話の内容との重複を出来るだけ避ける為、日常生活で忘れられた美術関連の基礎知識や挿話を中心に、系統立てず、雑談形式で次の通り行われた。

使用された現品見本

(1) クリスタル	オールドファッション グラス	(サンルイ)
(2) クリスタル	長円形 ぐい呑	(保谷)
(3) クリスタル	底部カット ぐい呑	(保谷)
(4) 朝日 豊齊	均窯釉香炉	(共箱) (宇治)
(5) 藤井 朱明	兎文香炉	(共箱) (有田)
(6) 今井 政之	象嵌干支酉香盒	(共箱) (京都)
(7) 喜多村 午郎	粉引手茶碗	(共箱) (敦賀)
(8) 上村 松篁	リトグラフ 春苑	
(9) 岩橋 英遠	リトグラフ 流水	
(10) 片岡 球子	リトグラフ (A) 三国峠の富士	
片岡 球子	リトグラフ (B) 松原の富士	
(11) 児玉 幸雄	リトグラフ 私の巴里 Part 1 (4部作)	
	(春) エッフェル遠望	
	(夏) 雨のムフタール通り	
	(秋) ムフタール通りの朝市	
	(冬) 小さな公園	

- ・鑑定と鑑別の相違点と鑑定の現況について
- ・丸(円)と角(方)を基本とした形に対する考え方と、三点方位(三角)の取り扱いについて
- ・形に関連した工芸品制作上の約束事による作品の見分け方、香炉の飾り方に対する原則について(見本 No.4 と 5 を回覧)
- ・香炉に付随しての香盒の重要性について(見本 No.6 を回覧)
- ・朝鮮伝来の代表的な手法である「粉引」について(見本 No.7 を回覧)
- ・クリスタル容器の使用時に於ける低重心による使用感覚の特徴について(見本 No.1、2 と 3 を回覧)
- ・上手(かみて)と下手(しもて)に基く席順、封印、掛紐、水引などに於ける決まりについて(上から下へ、右から左への法則)
- ・尾形乾山制作の角皿の造りに関する特徴について
- ・土瓶、急須、宝瓶(ほうびょう)の区分について
- ・古陶、新陶の造りによる区分について
- ・尾形光琳に代表される「留守模様」の構図が、「京絵」に及ぼした影響について(見本 No.8 を使用)
- ・水墨七彩、円山応挙が得意とした「破墨」の手法について
- ・ヨーロッパで考案された二方向の対象物を一画面に纏める方法について(見本 No.10A を使用)
- ・良いとされている構図を逆手に取り、成功した作品について(見本 No.9 と 10B を使用)
- ・抽象画(アンフォルメル)の製作現場の状況と、作品に関する東山魁夷画伯の見解に対する挿話について
- ・物故画家の遺作に対する「アトリエ版」の習慣について
- ・掛軸中心から額装に移行した、太平洋戦後以降の日本画の画風、絵具の変遷について
- ・カメラの出現と進歩による絵画の「隠し色」に関する挿話について
- ・色使いの方向と「隠し色」の見分け方について(見本 No.11 を回覧)

(記録 岩岡 茂之)

流通の変化あれこれ～物売る側と消費者の思考の変化等

話をする人：小林 時雄
司会者：米林 伸恭

話をする人：埼玉県出身、昭和42年(株)小林装飾を創業。バブル後、同業18社にて共同法人“カ-テンじゆうたん王国”を設立、全国チェーン店化を目指す。1990年、同チェーン店の代表取締役就任。郊外型のインテリア専門店ディスカウンターを目指す。現在グループ店は76店舗。

1. 日本の商業の歴史は

- A:江戸時代まで }
 - B:明治～終戦まで } 大別される(資料参考)
 - C:終戦後 }
 - そして
 - (流通革新への始まり)
 - (バブル経済時代)
 - (バブル崩壊後) に移行する

歴史の中で、我々は二つの日本経済構造の大変動を経験した。一つは終戦によるところの、もう一つは平成における『バブル崩壊』である。これは昭和史における『オイルショック』の比ではないと云えるだろう。

私自身が過去、経営者として培ってきた知識・技術・ノウハウ等、成功経験も通用しない「経営受難」の時を迎えた。すなわち、企業の生き残りをかけた挑戦の時代であり、未来を切り開くための成長戦略の確立の時期であり始まりでもあった。

「流通革新」は、昭和40年代～平成一桁までの「バブル経済」に支えられたチェーンストアの大型化に始まり、商業構図を変えてしまった。経済大国といわれ、一貫して小も大も、右肩上がりの成長をみせ、生活者も全てが中流を意識出来る良き時代も、「バブル崩壊」「日本経済の崩壊」の後、大企業や大手流通の収益が悪化し始め、倒産旋風が吹き荒れ、かつてのマネジメントは崩壊の危機にさらされた。

その間「消費者の購買意識」は過去の高級志向への執着から、より現実的な生活重視へとシフトし“消費の無駄＝ダブルペイメント”を再認識させたのである。

結果として、消費者が生活の知恵として身につけた変化は、

- ・真の「適正価格」と「対価に見合う商品」を選択する...意識
- ・自分の価値観を満足させる店を選択して足を運ぶ・・・行動
- ・高品質かつ低価格、豊富な品揃えを実現している店舗の選択
- ・買い物の頻度の減少に伴う低価格指向の定着
- ・価格、品質をもとに類似商品を比較する眼力
- ・交通アクセスや駐車場の有無などの利便性の追及

日本の流通の変化はアメリカモデル(徹底した消費者本意の経済)が主流である。アメリカにおける商品の価格の安さは、その仕組みの合理性や物価の違い(日本の1/2価格)、物流の仕組みの違い、徹底したローコストオペレーション等に起因している。その背景には、自由競争原理の徹底や、使う側に立った商品構成と適正価格の浸透、消費生活の安さ(税金及び規制の違いによる)といった面もある。所得による国民の意識の違いも特徴的である。アメリカでは、年収5万ドルで高級サラリーマン(豊かさの実感がある)であり、日本では年収1,000万円のサラリーでも豊かさの実感は無いらしい。

こうして1990年、先進アメリカ流の流通を追うごとく、「価格崩壊」「流通崩壊」につながる流通構造は大変化を遂げていった。さあ、生き残れる業態は?置いてけぼりの業態は?

八王子商業の現状も大型スーパー、ホームセンター、大型専門店の出店攻勢により、商業エリアマップまでも変わってしまった。流通の大きなうねり構造の変化は、小が生き残るために大きな課題を突きつけたのである。

個の力の限界、既存売り場坪の限界、経営者が情熱と意思を持続する限界、他力本願の限界、商店街への依存の限界などなど、今、流通業界は規模に関係なく「自店の存在感」との戦いでもある。期間限定の特売価格ではなく「エブリデイロープライス」=商品を安く売り続ける為に、低コストを実現させる

ことが企業課題であり、「勝ち組」の条件でもある。
小さな小売業が大を制するには、豊富な経験と接客やサービスで大型店に負けない満足とアドバイスを提供する・専門店ならではの心意気と武器を持つことこそが最も大切な決意ではないだろうか。

過去、私自身が個人での経営から専門店集団（ボランティアチェーン）を結成し、共同仕入れ構造を取り入れたことや、バブル時代の好景気を機に更なる事業の活性化を目指し、5年間かけてアメリカの流通を勉強した後、フランチャイズチェーン「(株)カーテンじゆうたん王国」を設立し代表取締役として就任したことも、大きな転換であり決意であったと自負している。

2010年（5年後）は暮らしを変える流通革命＝「生活者対応型ビジネス」への移行が益々不可欠になるだろう。

21世紀のホームファッション界のテーマは、日本の住生活において生活者に『豊かさの実感』を提供することであり、そのためには業界がもっと更なる変化・変貌を遂げることが使命でありロマンでもある。

（記録 小林 時雄）

八王子の明日の明日を考える（市民の暮らし、文化、買い物）

話をする人：大野 聖二
司会者：八木 啓充

話をする人：八王子に生まれ育ち、青年時代から様々な分野の研究活動を続け、また郵便局長を勤める傍ら青少年育成を始め多方面に亘る人々と交流を図り、地域生活文化研究所を始め、多くの研究組織や地域文化団体を創設し文筆活動をしている。

今日は、「八王子の明日を考える」という事で、皆さんと一緒に考えて行きたいと思う。地域と人の在り方、その地域に拠って人々が幸せを求める。昔、都市間競争という言葉があった。今日配布した資料に「駅別一日平均乗車人員表」があり、残念ながら、昭和 55 年の資料が記載されていないが、その頃八王子駅の乗車人員は、吉祥寺とほぼ同じであった。しかし、平成 6 年頃から三鷹、国分寺にも抜かれ、平成 15 年には 3 万人を割り込んでしまった。何故こうなったのか、昔は上野原、大月、相模原、飯能等から来る人が多かった。これが少なくなったのが大きな原因だと思われる。

なぜ私が、地域に拘るかと言うと、私たちは多くの税金を払っている、その税金が私達の為に使って貰える最低単位が市町村である。そうすると市町村と私達は運命共同体と言う深い関係にある。私達は地域をより良くする為に地域と人々の事を考えなくては成らない、と言うことを前提に考えて行きたい。

日本人の歴史感と言うのは、明治から終戦までは、天皇陛下を中心とする神の国であると言う皇国観だった。戦後はこれが否定され、ロシア等が唱える唯物史観に立つ全体主義とアメリカ等が唱える自由主義の個人主義歴史観が交錯してきた。

今日配布した資料の中に「業態別事業所及び小売り販売額」があり、これは八王子で色々の買い物をする場所、年間販売額の平成 9 年と平成 14 年とを比較した表で、総合スーパーが平成 9 年は 5 店、平成 14 年は 8 店と増加し、総合スーパーに買い物に行く人が増加している。それと専門店で衣料品を買う人が意外と増えている、しかし衣料品をスーパーで買う人はそんなに増えていない。これは、市民の消費傾向が 5 年で変わったと言う事である。商店で一番増加したのが総合スーパーで、次がコンビニエンスストアである。それから普通の街中にある商店で衣料品の購入が 2 倍半も増えている、これは大変面白い事だ。

しかし残念な事に高価な衣料品は八王子では買わないと言う傾向が出ている。次に「八王子以外で買い物に行くところ」であるが、高価なものは八王子では間に合わない、立川や新宿に行ってしまう。これが今の八王子の実情なのである。昭和 42 年頃、「大丸」が開店して半年目頃の話だが、上質の物の売れ行きが悪いと言う話であった。これは当たり前で、デパートが出店するときは、マーケティングリサーチをするが、八王子は人の流れが中央線と、京王線に分かれている、全域を想定して品揃えをしたが、京王沿線の人々は皆新宿へ流れ、中央沿線の人しか来なかった。その時もう半年待っていれば、段々と人が戻ってくると言ったが、半年待たず、3ヶ月程して商品の質を落としてしまった。この事は「そごう」の場合にも言えた。

八王子は特殊な地形をしている、めじろ台や南部ニュータウン地域から直接 JR 八王子駅には来れない、と言うように交通の便が悪い。これからの街づくりには交通のアクセスをもっと考えなければいけない。街づくりを考える上で幾つかの問題点がある。自分達で出来る事は一生懸命にやる、しかし行政にお願いしなければ出来ない事もある。この事は皆で要望しなくてはならない、大事な事である。お金が沢山かかる事は大局的な所で動いてもらう必要がある。立川に色々な施設がいつってしまった、これは立川市当局の努力があった。八王子も都や国に働き掛けて、研究して欲しい。

八王子は幸せな事に、江戸時代から日本の首都から遠くない所にあり、絶えず中央の影響を受けていた。昔は、八王子は田舎者扱いをされた、しかしある意味では農村的な良い要素を持っていた。この良い要素をどのように生かしていけるかが、これからの八王子の街づくりに繋がるのではないかとと思われる。

レジメの「ねたみが地域を滅ぼす」、配布した資料「町名別小売り販売額（平成 14 年）」を参考にしたい。江戸時代に入って八王子で最初に市が出来たのが、横山町と八日町で、八日町は 8, 18, 28 の日、横山町は 4, 14, 24 の日に市を開いた。段々と繁盛してきたが、新町でもお店が作られ一時は流行ったが、八日町、横山町の人々が、市の開催権は我々にあるとして市を止めさせた。このため新町では商店が少なくなった。また、八幡町でも出店する人が増えてきたが、これも反対に遭った。しかし八幡町の人々は、小売りが駄目なら卸売りなら良いだろうと言う事で、卸業を始め現在も良い店がたくさん

ん残っている。また多摩御陵ができ、京王電鉄が京王八王子から浅川の北側を渡って御陵に行く事を計画したが、これも八日町、横山町が寂れると言う事で反対され、北野の方に回ってしまった。最近で私達が一番残念に思っていることは、JR 駅前の商業集積が出来なかった事だ。駅前から商店が連なり横山町、八日町と客の流れを通すため放射線道路をつくったが、駅前デッキが中途半端であり有効利用されていない。

「中心街地の町丁目別の小売り業数値」を見ると横山町の平成6年の売り上げは24,347百万円であったのが、平成14年には12,346百万円と約半分になってしまった。戦後小林市長が甲州街道を30m幅にしようとした、これも反対に遭い実現しなかった。皆で協力しあって繁盛しようとする事が街の発展に大事なことである。

ガルブレイスと言う人が、都市と市民との関係について書いているが、市民文化が最も発達できるのは政治都市、首都がある所、例えば京都、金沢等、殿様がいた所、これは食文化を中心に発展している。八王子は千人同心の街で食文化があまり進んでいない。またガルブレイスは、商業都市も地域の文化を進ませる、と言っている。八王子は一時期商業都市的な傾向にあった。それは明治41年に横浜線が開通し、昭和6年には八高線が通り、南北の交通体系が整ったからである。しかし現在では、八王子で客が降りないで、立川、新宿へ行ってしまふ。ただ面白い事に、梶田のイトーヨーカ堂には上野原や山梨県から車で買い物に来る人が増えている。これは商店の品揃えと交通体系を上手にすれば繁栄する余地があると言うことで、交通体系については行政で考えて貰いたい。

八王子の繊維産業は昭和60年を境に年々衰退の一途を辿っている。現在生産されている織物の半分はネクタイでこれも他所のブランド名で売っている。

今、「ダイエー」「西武」「そごう」等、昔の大きな企業は退潮ぎみになり、新しい人達が、新しい発想で、新しい企業がどんどん生まれてきている。これはポスト資本主義から市民社会への転換だと見ている。

それは、多くの資金を使って大きい物をつくるのではなく、人間の知恵をどう活用するかである。ドラッカーと言う人が、40年ほど前に20世紀は日本の時代だ、これは、日本が戦争のために既存勢力が一掃され、新しい人達が希望に燃え、新しい国づくりをしているからだと言った。しかし、つい10年ほど前には逆に、日本は戦後30年間に、制度が硬直化した、これからは新しく柔軟な組織に変わらなければならない、と言っている。

今、やる気のある市民を集めて新しい産業をつくり、新しい需要を開拓する時代になっている。この波に皆さんがのって行けるかどうか、八王子の未来を決めると思う。

昨年見学した川越市は、30年ほど前、市民の発想によって生まれた蔵の街だった。その南側には大正の街、昭和の街と繋がり、街づくり委員会ができて、蔵の街の会長・委員長で行政が支援参加している。また、長野県の小布施町も、その頃、小布施堂の若社長が江戸風の店舗を普及し、現在会長としてアラ小布施の会を作り行政が支援している。

八王子の産業で一番発展しているのは、精密機械工業で、昔の織物の技術を生かして新しい産業が育ちつつある。さらに八王子には大学が21もある、この知性を街づくりにどう活用するか、これに期待したいと思う。

(記録 近田 正人)

アンケート 「貴方の見た八王子」

を付けてください
その他の場合()に記入してください

1. 貴方の出身地は。
八王子 12 多摩地域 立川 1 武蔵野 1 その他(新宿 1 豊島区 1 千葉 1
埼玉 1 長野県 1 静岡 1 岩手 1 秋田市 1 神戸 1 大阪 2 佐賀県 1
2. ふる里と比較して八王子は。
住み良い 12 まあまあ 5 ふる里が良い 3
3. それはなぜですか。
住み良い: 八王子は郊外なので自然が一杯。 環境(風土)。文化都市で教育施設が多い。
ふる里が良い: 商店主の人柄が良くない。映画館やウォッチングできる場所がない。
4. 八王子で好きな事。
八王子祭り(花火がうれしい)。いちょう祭りがある 4 自然が豊か 2 高尾がある。
散策に良いところがある。 あまり天災がない。 駅から多方面にいける。
名所旧跡が多い。 季節の移り変わり。 温泉が近くにある。空気が良く都心に近い。
里山がある。 自然散策。 いじりすぎない公園が多い。
魅力が無くなっている。
5. 八王子でよく行く場所は。
八王子駅ビル(そごうを含む 8 高尾山 4 東急スクエアー 3
クリエートホール 3 富士森公園 2 図書館 2 市民センター 2
商店街 1 景信山 1 廿里 熊沢書店 長崎屋 ヨドバシカメラ
動物園 小宮公園 いちょう並木 特定の場所はない
今はどこもない
6. 八王子は次のどのような街と思いますか。
学園都市 12 ベッドタウン 6 商業都市 3 無個性都市 3
工業都市 1 ファッション都市 1 観光都市 1 未完成の街 1
情報発倍都市
7. 八王子以外ではどこによく行きますか。
立川 10 新宿 7 町田 1 吉祥寺 1 都心 3
それ以外(横浜 1 聖蹟桜ヶ丘 1)
8. お気に入りのデパートは。 好きな順に数字を入れてください。
伊勢丹 8 三越 7 京王 7 そごう 6 高島屋 5
どちらかというとスーパー 1 その他(イトーヨーカドウ)
9. 八王子の未来について希望が持てますか。
はい 12 いいえ 5 良く判らない 7
10. その理由。
希望が持てる
広い土地を持って都心に近い。 歴史的、人的、地理的資源が豊富。
八王子を愛する人が多くいると希望を前提に。
良く判らない
行政はビジョンだけでなくアクションを取って欲しい。 都市として視点が見えない。
市民や行政当局の目指す方向性が判らない。商店の人達が新しい時代に向けた努力がない。
古い商店がガンコで新風が吹き込めない。多くのところで癒着が続き無駄使いが多すぎる。

アンケート 「八王子に期待する事」

1. 八王子の街づくりはどの様にあったらよいと思いますか。
 北西部の交通体系の整備 10 商店街の活性化 10 文化施設の充実 6
 総合インフォメーションの設置 3 駅前の客引き廃絶 2 住宅街の環境と安全の保持 2
 自然を生かした街並 南大沢地区等への交通体系整備 1
 その他（健康的な農業の振興 商店会がばらばら 大学、大学生の活躍を期待）
2. 将来どのような街になってほしいですか。
 商業都市 10 学園都市 10 観光都市 9 情報発信都市 8
 ファッション都市 4 近代工業都市 3 田園都市 2 閑静な住宅地 2
2. 八王子で今興味のある地域はどこですか。
 中心市街地 7 八王子駅南口 6 南大沢地域 4 高尾地域 2
 みなみ野付近 3 めじろ台地域 2 西八王子地域 2 北野地域 1
 宇津木、加住地域 1 北西地域（恩方、川口）1 元八王子地域
 その他（なし、南口に清潔感が感じられない。西八地域は医療、商店が整い住みやすい。
 北西地域には新しい人を受け入れる体制がある。 核としての中心市街地。
3. それはどのような理由ですか。
 中心市街地、周辺衛星地域の明確な性格付けが必要。
 南大沢地区の恵まれた自然環境とまちづくり地域コミュニティの形成。
 高尾山と御陵への観光拠点として。
4. 今、行政に要望したい事はなんですか。 複数で結構です。数字で順位を入れてください。
 地域産業の振興 7 交通体系の整備 7 中心市街地の再開発 7 地域特産品の開発 5
 高齢化対応の充実 4 環境問題の取組み 3 総合的インフォメーションの充実 3
 学校教育の充実 3 市街地のバリアフリー化 3 学園都市機能の開発 2
 体育施設の整備 2 少子化対策の推進 2 美術館の充実 2 会議施設等の新設 1
 イベントホールの建設 1 その他（ ）
5. 八王子駅前をどの様にしたらよいですか。
 映画館、劇場、美術館や遊び場（緑地帯など）を作る。 南口の整備が遅れている。
 南口公衆便所の改善。デッキの延長を。総合インフォメーションセンターを駅前に設置。
 北口の街へのアプローチの再検討。 若者ライブの定例化。 品のある活気のある町に。
 専門店の誘致を。大規模チェーン店を減らし差別化を図った店舗の駅前通りにする。
 丸井のあとを市の顔に。バス停が不便、高齢者への配慮がない。 活気のある街に。
 インフォメーションの充実。 緑地帯を造り高い建物は建てないで欲しい。
6. 私達の街をよくするための貴方の提案。
 勇気のある打破が必要です。 八王子でなければと言える街づくりをして欲しい。
 国と都に対し市関係者の働きかけ。 国道16号の拡張。 モノレールを南北へ。
 市民会館の駐車スペース拡張。 交番、パトロールの強化。 循環型社会の構築。
 安くて美味しい店を増やす。 こだわりのある店が欲しい。 西放射線の有効活用。
 無性格の街から脱皮。観光客が市街に来るような施策。若い人達の発想を取り入れる。
 市内のロータリーやJCなど奉仕団体が共同で地域に提案したり行動をおこして欲しい。
 高尾山と御陵の活用。 優秀な人材を育てたい。市議員がもっと働く事、勉強する事。
 市民参加で企画案を作る。 パーク&ライドを取り入れる。

朝鮮半島を視る

話をする人：渋谷 文雄
司会者：石井 充

話をする人：戦前、旧満州国に留学。在学中に敗戦となり、八路軍に抑留され、八路軍兵士として各地を転戦し苦難の青春時代を過ごす。昭和28年秋に帰国し、経営者団体を経て実業界で活躍、中堅上場企業の代表取締役役に就任、社長、会長を経て現在は日野市在住。長い大陸での体験で培われたものから、小事に拘わらぬ大人の風格を感じさせる。ライフワークは中国現代史の研究。今回は初めて朝鮮半島における朝鮮史の発表を手がけた。

1995.8.15、村山富市首相の談話により、日本と韓国はより正常化に近づいた。その談話の要旨は以下の通りである。

「いま、戦後五十周年の節目に当たり、銘記すべきことは、歴史の教訓に学び、未来を望んで、人類社会の平和と繁栄への道を誤らないことであります。わが国は遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害と苦痛を与えました。私は未来に過ち無からしめんとするが故に、疑うべくもないこの歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。また、この歴史がもたらした内外すべての犠牲者に深い哀悼の念を捧げます。敗戦の日から五十周年を迎えた今日、わが国は深い反省に立ち、独善的なナショナリズムを排し、責任ある国際社会の一員として国際協調を促進し、それを通じて、平和の理念と民主主義とを押し広めていかなければなりません」とまとめられている。

この要旨こそ、現在の日本政府の基本的立場であり、近代に入り誤った国策、戦争への道、植民地支配と侵略と大きく崩した関係を深く反省し、両国間の歴史の清算をすることが肝要であった。長く続いてきた日本と朝鮮半島との歴史の関係において、終戦後の一時は隣同士に在りながら、近くて遠い国、古くて新しい関係として両国間の相互の理解に欠如するものがあつた。

今ここに両国間の正常化を律として過去を遡り、日本と朝鮮半島の歴史についてその関係を探ってみよう。

朝鮮半島の歴史の始まりは長く、4,000年と言われている。それは日本の神話の世界よりずっと遠く「檀君神話」によると、韓民族の始祖、桓因、桓雄、王儉の三代を古朝鮮として建国(BC2333)から始まる。その後、高句麗が建国(BC37)、三韓(BC3~300)、新羅、百済が誕生し三王国が鼎立。百済(663)高句麗(668)が唐と新羅の連合軍によって敗北、滅亡、続いて新羅は唐と離反し、百済人、高句麗人を糾合して唐を撃退、民族国家を統一(676)が行われる。その後、後百済(892)、後高句麗(901)が再建、連携して新羅を破り、王建が統一「高麗」を建国(918)貴族社会が始まり、科挙、両班(文武)階級の国家が誕生。文化面の発展著しく金属活字の発明、高麗磁器の開発等が抜きんできていた。ちょうどこの時代は、日本と朝鮮半島における民族の交流が盛んで、日本においては桓武天皇の即位(781)、奈良から京都へ遷都(794)、平安朝、保元、平治の乱、鎌倉幕府執権北条時宗、蒙古襲来頃までにあたる。高麗王朝は475年34代で終焉し、新たに朝鮮王朝が始まる。高麗内部の多くの抗争を経て李成桂による「朝鮮」の建国(1392)、明を宗主国として李王朝が始まる。王を中心とし儒教を經典とする封建的官僚国家、階層身分社会の確立、両班(科挙合格者)、中人(行政・技術)、常人(農業・軍務)、賤民。身分は世襲、階層間の交流不可。家長中心大家族制度となる。

朝鮮文化の開花により、表音文字ハングル28の創製(1443)陶磁器、雨量計、天測記の著しい進歩が成された。豊臣秀吉の朝鮮出兵(1592)等により日本との関係は一時絶えるが、徳川幕府の時代より通信使の往来が復活し、封建制において日本との関係を持続した。

封建制末期において、欧米のアジア進出により、日本同様通商条約締結(1882米、独)(1883英)(1884露、伊)(1886仏)、その後金玉均のクーデタ、東学の乱、閔妃の暗殺、日清出兵の勢力争いに続く日本の侵略により、両国間の不幸な事態が始まる。日韓併合により朝鮮王朝は27代591年で終焉した。「日韓併合に関する条約」は日本国が韓国を併合することの主旨、第一条~第八条により構成し、明治43年8月22日(1910.8.22)両国の全権委員によって記名調印され、この日を持って「韓国」という名の国が地球上から一時抹消されたことは誠に不幸な出来事であった。

1945年8月15日、日本の敗戦による終戦と同時に朝鮮半島は南と北に分かれた。南朝鮮は大韓民国、北朝鮮は朝鮮人民共和国として建国が宣言され、李承晩大統領、金日成首相が選出された。1950年6月、北朝鮮人民共和国の軍隊が北緯38度線を超え侵入し、南北朝鮮戦争が暴発、一時はソウル陥落などがあったが、国連軍マッカーサーの反撃、「抗米援朝」、中国軍の参戦により休戦交渉が開始され、1953年7月板門店で休戦協定成立し、現在に至っている。

戦後に於ける日本と朝鮮半島との関係は南朝鮮(韓国)については、1962年11月日韓基本条約締結、1995年8月15日、冒頭の村山富市首相の戦前に於ける日本の行為について遺憾の意を表す談話を述べることにより、友好関係が成されている。しかし、すべての問題が解決したわけではなく、最近においても日韓両国の間には、竹島領土境界問題、新歴史教科書、靖国参拝、個人賠償問題、など数多くの諸問題が存在している。又、一方北朝鮮の北朝鮮人民共和国の関係は未だ国交の回復は出来ず、拉致問題をはじめ核問題、ミサイル問題、六者協議等の隣国に対しての国際問題が大きな課題となっている。

(記録 宮崎 浩平)

内 視 鏡 の 話

話をする人：永井 昌平
司 会 者：橋本 鋼二

話をする人：東京神田生まれ。昭和38年早稲田大学理工学部応用物理学科卒、オリンパス(株)入社。主として研究開発部門を担当、工学博士。現在は、光技術の日本史を調査、研究中。

内視鏡システムはコントローラー部と内視鏡本体とからなる。コントローラーには光源をはじめ、吸送水・送気用ポンプなどが内蔵され、さらにはビデオプロセッサなども内蔵されている。内視鏡本体は接続部、操作部、軟性部、先端部からなり、接続部でコントローラーとつながれている。先端部には対物レンズ、照明用ライトガイドが二本、送水ノズル、鉗子口などが見られ、これらのスペースをとるために細くできないことがわかる。軟性部は柔らかいほうが飲みやすいが、先端部に前進後退・回転などの力を伝えるだけの硬さが必要なため、あまり柔らかくはできない。前進後退・回転・湾曲・送水吸引などはすべて手元の操作部で行われる。そのため、操作部は人間工学上もっとも考慮されて作られている。

内視鏡は、大別して硬性内視鏡と軟性内視鏡に分けられる。硬性内視鏡は比較的体表に近い部位に使われ、膀胱尿道鏡や関節鏡等がある。また、腹腔鏡が開発されたことによって胆石の摘出などはきわめて楽になった。

軟性内視鏡は上部消化管用や大腸スコープに代表される。構造上はイメージファイバーを用いるファイバースコープとCCDを用いたビデオスコープがある。ビデオスコープは多人数での診断が可能のため、診断の正確さは増すが、一方でCCDを使うために細くできないという欠点がある。また、表面でなく、内部の疾患を検査するための超音波内視鏡もある。さらに、最近になってカプセル内視鏡も開発されているが、これは将来技術として期待されるものである。

内視鏡の歴史は古く、ギリシャ・ローマ時代にさかのぼる。しかし、進歩は遅く、内視鏡の原型といわれる導光器が開発されたのは1805年になってからである。現在の硬性内視鏡の原型は1877年に、軟性鏡の原型は1932年に開発された。軟性内視鏡の発展に貢献したのが、1950年に開発された胃カメラである。その後、光ファイバーの進歩によってファイバースコープが主流となり、1975年ごろには胃カメラの姿は消えていく。最近では、CCDを使ったビデオスコープが使われるようになり、診断の確度も向上している。軟性内視鏡は世界で初めて日本で開発され、多くの医師と開発者の二人三脚によって改善が続けられた。その結果、日本製の内視鏡がいまや全世界で使われ、医療の進歩に大きく貢献している。

内視鏡は人体の色々な部位に使われ、その種類も極めて多い。代表的な部位の検査・処置・治療法が紹介された。食道は、一般にヨード染色による検査が行われる。胃・大腸については、組織を採取して顕微鏡で検査するバイオプシ、ポリープの切除術、内視鏡的粘膜切除術が紹介された。膵臓・胆道については、鉗子穴から造影チューブを挿入し、造影剤を注入してX線で検査する造影法、鉗子穴から子スコープや超音波プローブを挿入して検査する方法、さらには超音波内視鏡による胃を通しての検査法が紹介された。また、鉗子穴を通して行う乳頭括約筋切除術や胆石の砕石・採石術も紹介された。内視鏡にできるその他の処置として、異物摘出に使われる色々な鉗子、さらにはヒートプローブによる止血法やクリップによる止血法が紹介された。

内視鏡の応用分野は広く、災害時に使われる救助用内視鏡は数十メートルに及ぶ長いものが開発されている。また、設備機器の点検に使われる工業用内視鏡も多くの種類がある。さらには、古墳内部の非破壊調査、鳥などの生態調査にも使われている。最近では、ペット用内視鏡や動物用内視鏡も普及し始めている。

(記録 永井 昌平)

大道芸よもやま話～口上商人の真髓を探る

話をする人：下田 泰造
司会者：武田 洋一郎

話をする人：2002年3月に、計測器の大手メーカーである、横河電機を定年退職。最終的には、関連企業である、横河エレクトロニクス・マニファクチャリング(株)の生産技術部長として、新製品の開発、製造ラインの設計など担当。趣味は大道芸と園芸。

各種伝統的な大道芸の絵図の付いた、講演の資料が配布された。

日本の大道芸

今日のお話は、前から知っていたこともあり、図書館で調べたこともあり、またお年寄りに聞いたこともあるが、殆どが以前に読んだ本から得たものである。今、大道芸は大変はやっており、東京では、石原都知事が勧めた「ヘブンアーティスト」なる都知事公認の制度があって、認定者は決められた場所なら、大道芸をやってもよいというお墨付きを出している。

大道芸といっても色々あるが、一つは若者が演ずる、「ストリート・パフォーマンス」で、駅前などでギターをかき鳴らしているのがこの類。もう一つは外国人の「出稼ぎサーカス芸」で、一輪車に乗ってジャグリングや、椅子を積み重ねて逆立ちしてバランスをとる芸。そして、寄席、演芸場、お座敷から転向した、落語と講談以外のもの、例えば漫才、コント、手品などの「色物芸」。また、商売の為の売り声や口上などがある。

日本の大道芸のルーツを探ると二通りある。一つは江戸中期、乞胸頭(ごうむねかしら)によって支配されていた、門付け放浪芸。もう一つは、香具師(やし)の支配下に置かれていた物売り商人達が演ずる、口上芸がある。この二つの芸はどこが違うかということ、乞胸の芸は、投げ銭、放り銭を当てにしていたが、香具師の芸は、商いの手段として演じられていた所が違う。

ごうむね
乞胸

一口で言うと乞食のこと。広辞苑によると、江戸時代、編み笠をかぶって辻噺や辻講釈などをして路傍で銭を乞うた乞食。因みに大道芸をひいてみたら、大道で演ずる、卑しくて俗っぽい下品な芸とあり、まさに乞食の芸。乞食とはどんな身分の人かということ、士農工商の四民の下に位置づけられた賤民で、穢多(えた)とか非人とかで、穢れが多いとか、人にあらずといわれた人達。このような無宿人は、乞食の人別帳に載せられて管理されていた。この乞胸の頭に弾左衛門というのがいて、その配下に車善七、その配下の山本仁大夫が乞食頭(代々世襲制)。この仁大夫の鑑札が無いと江戸の町を流すことが出来なかった。この配下の門付け芸人は、鳥追い女、猿回し、角兵衛獅子などで、品物売るのではなく、芸を売って銭を貰っていた人達。

一方、香具師の配下で商品売る手段として面白いことを言ったり、興味を引くものを見せたりして人を集め、商売をしていた商人の口上芸、代表的なのは蝦蟇の油売り、薬草売り、比較的新しいもので、バナナの叩き売り。また、当時は芸としてではなく、物売る為の売り声など、懐かしいのもう一度聞いてみたいという郷愁で、今は大道芸の部類に入っているものもある。このような乞胸や香具師の配下の芸は、砂の芸と言われ、一段、二段低い芸と見られており、舞台では演じられなかった。この芸を舞台で演じられるよう格上げした人何人かいるが、戦前に亡くなられたサカノヒロシさん、また今舞台でやっているミヤタショウジさん(後段で芸を録音で披露)。

やし
香具師の由来

「香」とは伽羅(きやら)、栴檀(せんたん)、陳皮(ちんぴ)、麝香(じゃこう)などの焚き物で、今のお香。袋に詰めて匂袋。有産階級が身につけたり、また武士は戦場に赴くとき、兜や鎧の下につけた。「具」は仏具のことで、「仏画」「鈴」「手錫杖」「小木魚」「祭文」「経文」。中でも仏画が人気。「師」とは先生で香具類について教える人。無論、仏教の説明は物売る為には欠くべからざる大事なことであった。仏教は日本に伝来してから50年後、聖徳太子によって一般の人達も仏教を信ずるようになると、香を欲しがる人も増えてきた。従って売る方も片手間でやっていたのが職業化してきた。難解な経文の解説や香の使い方などは、当時とすれば高度な仏教の知識を必要とした。この商法は誰にもオイソレと出来るものではない。曲がりなりにも出来るといえば、当時の知識階級とも言うべき「武士」であった。この武士の中でちょっと知恵のあるやつが、仏教の何たるかを説きながら、都やその周辺の村々を売り

歩いていた。世間の人は、これらの武士を香具師(こうぐし)と呼んでいた。香具師誕生の経緯である。以上のように、この時点では「やし」ではなく「こうぐし」。

何故「やし」と呼ばれるようになったかと言うと、当時の「武士」は「防人」とか「北面の武士」とか言って、皇室の正式の兵のみをさし、城の周辺に住み城を警備していたので、香具を売り歩く暇が無い。売り歩いた「武士」は、周辺の嵯峨野とか柴野とか幾多の原野に群れを成して住んでいた、「野武士」と呼ばれた人達だった。皇室を尊び崇めていた彼らは、皇室の兵たる「武士」の名は恐れ多いと、自ら「野武士」の「武」を取り除いて、「野士」と言うようになった。これが後に「香具師」と書いて「やし」と読まれるようになった由来である。

たかまち

高市の誕生

彼らは村々を回って訪問販売をしていたのだが、それでは一日の売り上げは高が知れているし、また他の香具師とかち合い争いになるかも知れないので、そこで、自ら訪問して商いをするのではなく、客の方から来てくれる方法を考え付いた。それが高市。

以前から神社仏閣は、戦いを避ける為小高い丘の上にあった。ここなら敵が攻めてきても見通しが利くし、防ぐのも容易なので、ここに市を開いた。このような香具師があちこちにいたので、他の集団とも手を組んで、日にちが重ならないように、縁日を制定した。縁日には、売り手と買手で賑わい、高い所にある神社仏閣の境内は、さながら町の様だったとあり、これが高市の語源。

今でも高市という言葉は生きていて、その筋の人達には使われている。八王子では大横町にあった大善寺の縁日で、お十夜会と言う大きな高市があった。昭和36年に引っ越してなくなったが、サーカスや見世物小屋、多くの露天商が出て、大勢の人出で賑わい、香具師の稼ぎ場所であった。どんなものがあったかという、べっこう飴、新粉細工、カルメ焼き、わた飴(八王子では電気飴と言った)、お好み焼き、ハッカパイプ、銭亀売り、鰻釣り、ひよこ売り、やまがらの御神籤売り、焼きそば、タコ焼き、おでん、おもちゃ、怪しげな薬売り、鋸、包丁、万年筆、十徳ナイフ、メッキの粉、おばけ鉛筆、大道易者、物産飴売り、薬研堀七色唐がらし、反物売り、等等。なんととっても人だかりがしたのは、啖呵売で、これが滅法楽しいから、一時間でも二時間でも見ていた。このとき視たり聞いたりしたことが、今私がやっている大道芸の元になっている。

てきや

的屋

よく、香具師と的屋とどう違うかと聞かれる。香具師が、何故的屋と呼ばれるようになったかと言うと、四代将軍家綱の時、由井正雪の幕府の乗っ取り事件が起き未遂に終わったが、その再発防止策として、浪人だけではなく商人も含めて、人別帳を作ることにし、商いをするものは屋号又は商号をつけて即刻届けるべしと、全国にお布令を出した。困ったのが香具師の一党であった。香具師はもともと野武士であったので、町人達に使いやすい小さな弓を作り、矢場をやっていた。その矢場の入り口に的の看板を出していたので、取りあえずこれにしておこうと、的の下に矢をつけて、「マトヤ」として届けたが、当局は、射的の「テキ」だから、「テキヤ」と読み違えた為と言われる。また、一説には、狙いが当たれば利益を得るということから、的に矢が当たることになぞらえたものとも言われる。このように野武士から香具師になり、的屋になり千四百年生き続けている。

しんのうさま

神農様

香具師は、元来その誕生において商人であり、商法の元祖。その香具師が祖と仰ぎ、守り神としているのが、神農様。この神農様は「百草をなめて医薬を作り、路傍に市を開いて交易を教えた」と言うことで、露天商の祖となった。また、漢方も神農様を神としている。

以上述べたような流れの中から、大道芸が生まれた。ここで、香具師の中でも資本を要する興行師(客を集めて入場料を取って見せるもの)と、商品を売るための手段として行っていたもので、幕末から昭和にかけてあった、大道芸と香具師を列記してみた。

1. 興行師の部類

軽業、綱渡り、人形芝居、操り人形、大神楽、倭獅子、曲馬、手品、足芸、因果もの、道化踊り、かつぼれ、茶番、相撲、女相撲、剣舞、のぞきカラクリ、サーカス、活動大写真、独楽まわし、等等

2. 的屋の部類

蝦蟇の油売り、薬草売り、千金丹、万金丹、毒消し売り、定齋屋、孫太郎虫、オイチ二の薬、苗売

り、金魚売り、竿竹売り、アサリ、シジミ売り、朝顔売り、辻占い売り、梯子売り、外郎売(ういろう)、号外売り、アイスクリーン、チョイチョイ買いな、吉原の細見(今で言う、ガイドブック)、玄米パン、バナナの叩き売り、瀬戸物の叩き売り、七色唐辛子、物産飴売り、六魔(ろくま)(大道易者)、百貨売り、万年筆売り、演歌、など

ここで、懐かしい売り声や珍しいものをテープでお聞かせする。

- (1) 納豆売り(2) アサリ、シジミ売り(3) 羅宇屋(らおや)(4) こうもり傘の張替え、砥ぎ屋、
鑄掛屋、(5) 竿竹売り(6) 焼き芋(7) 金魚屋(8) 朝顔の苗(9) 梯子売り(10) 薬屋
(11) おでん屋(12) チョイチョイ買いな(13) 飴屋(14) 物産飴売り(15) オイチニの薬
(16) 七色唐辛子(17) のぞきカラクリ

たなかばい

啖呵売

啖呵売の始まりは、皇室を中心とした特権階級に流れ込んできた、ご詠歌、和賛(仏や菩薩のどの徳を褒め称えた歌)などが、香具師の世界に下げ渡され、香具師がこれを庶民に伝えた。香具師にとって語りは得意なので、あり難い事をオーバーに、庶民に分かりやすく、また買い易い様に説明しながら、口角泡を飛ばして売っていた。これが啖呵売りの始まりである。

次の啖呵売りのテープを聞いた。

- (1) 薬草売り(2) 六摩(大道易者)(3) 泣き売(なきばい)(4) ガマの油売り(5) バナナの叩き売り(6) 南京玉すだれ(由来の説明の後、熱演があった)

(記録 矢崎 安弘)

介護予防のすすめ - 世話を受けない老後をめざして

話をする人：石田 雅巳
司 会 者：松尾 信一郎

話をする人：昭和6年生れ、日本医科大学卒業。都立府中病院産婦人科医長、新宿赤十字病院第一産科部長、八王子保健所長を経て平成9年より介護老人保健施設ハートランド・ぐらんぱぐらんま施設長。他に、思春期保健相談士、セックス・セラピストとしても活動。

テーマの内容上、前回までにお話したことと重複することもあることを、初めにお断りしておきたい。

1. 介護予防は「病気の予防」と「老化の予防」である。

現在、日本では高齢化率（65歳以上の人々が全人口に占める割合）は19%を超えた。平均寿命も、男性77才、女性85才と世界の超長寿国となっているが、70才前後はもはや高齢者とは呼べないような活力のある集団となってきている。最近では、75才を境として前期、後期に分けるようになった。問題は、後期高齢者であり、どうしても老化による心身の機能や、ADL（日常生活機能）の低下が表面化してくることである。

そこで、いわゆる健康寿命をどう延ばすかが重要となってくる。

介護保健が実施されて、満5年。今年4月に改定が行われた。現在までの大きな問題点は、比較的症状の軽い要支援、要介護1の認定者が2.2倍と大幅に増加しており、全体の約半数を占めていることである。これら軽度の方々の原因は、高齢による衰弱や転倒・骨折、尿失禁、低栄養、軽度認知症やうつ状態などの老年症候群であり、結果として心身の機能を積極的に使えず、さらに悪化してしまう「廃用症候群」となる悪循環をどのようにして断ち切るかを考えねばならない。

更に、今、健康な人達が心身を錆びつかせないため、或いは、介護を必要としている方達はその機能を取り戻すための取り組みこそが大切であり、それが介護予防である。

これは老年期だけの問題ではなく、中年期からの健康づくり、生活習慣病への備え（がん、心臓病、脳卒中、糖尿病などの早期発見、早期治療）を心掛けるべきである。

資料にあるように、65才以上の要介護の原因は脳血管疾患26%、高齢による衰弱17%、転倒・骨折12%、認知症・間接疾患各11%、パーキンソン6%となっている。これらは男女によっても異なり、男性は脳血管疾患、女性は筋骨格系の衰えが主である。

また、年齢的にも前期高齢者では脳血管疾患が半数近くを占め、後期高齢者では衰弱などの老化現象が高率となっている。

これらへの対策として必要なことは、人間の体の仕組み、老化による変化、男女の差、更に、心はどう変化していくのかを十分理解することである。（加齢による体の変化、生理的老化現象の現れ方、高齢者の病気の特徴、男女のホルモンの差など資料参照）

2. 危険な老化のサインを見逃さない！

- ・自分の身の回りことが億劫になった
 - ・ちょっとした所でも、つまづいて転びやすくなった
 - ・不意に尿がもれることが多くなった
 - ・うまく噛むことができなくなった
 - ・食事が単調になった
 - ・物忘れがはげしくなった等
- （「おたっしゃ21」参照）

3. 女性に多い骨粗鬆症

女性ホルモンがカルシウムの取り込みを助けている－ホルモンの分泌が少なくなる更年期以降、骨が脆くなる。

予防：食事

中年期よりカルシウムの多い食品 - 乳製品・小魚・大豆・緑黄色野菜・ひじき・海草など、ビタミンDの多い食品 - 鮭・鯖・生しいたけ等の摂取に心掛ける。栄養のバランス

運動・日光浴

家の中でもつまづかないよう注意する - 照明・つまづき易い敷物・段差・滑り易い床など
筋力向上トレーニング（図参照） - 心臓その他に病気を持っている場合は、過度の運動は

かえってよくないので、医師に十分のチェックを受けることを忘れないよう。

4. 脳血管疾患（脳卒中）

三大原因 - 高血圧・高脂血症・糖尿病

予防：肥満を防ぐ（肥満度チェック）

・運動不足にならない・ストレスをためない・酒と煙草に注意

嚥下障害と口腔ケア

脳卒中の後遺症や老化によるADLの低下により、嚥下機能が低下し、嚥下時に気管に食物が入らないよう蓋をする喉頭蓋がしっかり機能しなくなり誤嚥し易くなる（ビデオ供覧）。就寝中でも自分の唾液が気管に入って嚥下性肺炎を起こすこともあり、外出よりの帰宅時、手洗い・うがいの励行、食後・就寝前の口腔ケア（歯磨き・義歯の手入れなど）に気を配る。

5. 低栄養にならない！

低栄養予防のための食生活指針（資料参照）

6. 尿失禁を防ぐために

40才以上の女性の3割強が尿もれを経験

腹圧性 - 咳・くしゃみ・スポーツなど腹に力が入った時にもれる

切迫性 - 尿意を我慢できないでもれる

溢流性 - 尿道の閉塞や尿を押し出す出す力が弱いため膀胱に尿が溜まってもれる

以上の三つが主な原因だが医師の診断が大切

腹圧性失禁は骨盤底筋（尿道や肛門を締める時に働く筋群）を中心に腹部や下肢の筋力を高める運動が有効（図参照）

切迫性・溢流性は医師に相談・治療

7. 認知症

アルツハイマー型痴呆 - 脳の神経細胞が急激に減って起こる。予防法や根治的な治療法はまだ確立されていない。

最初に物忘れ。はじめは古い記憶は保たれているが新しい出来事が覚えにくく忘れやすいという特徴があり、生活に支障を来すことになる。判断力も低下し、時間、場所、人物の判断がつかなくなる。症状が悪化すると感情も乏しく意欲もなくなり、一日中ぼんやりして寝たきりのような状態になる。

脳血管性痴呆 - 脳梗塞や脳出血などによって脳の神経細胞に酸素や栄養が行かなくなり障害が起こる。

物忘れ、頭痛、めまい、耳鳴り、しびれなどがみられることあり多くの場合、脳血管疾患を繰り返す中で認知症が現れ進行する。障害が起こった脳の場所によって、或る能力は低下しているが、別の能力は比較的大丈夫というようにまだらな機能低下がみられることがある。

*最近アルツハイマー型痴呆の方が多くなっている。

次のうち三つの項目が当てはまる時は、「年のせい」と放置しないで早く医師に相談！

- 1) 言葉がでてこない。注意が続かない。段取りが悪い。一度に二つ以上の事ができない。予定が立てられない。
- 2) 半年の間に、上記の症状が進んでいる。
- 3) 仕事をする上で、また、日常生活をする上で差し障りが出ている。

認知症予防のために日頃からこんなことに取り組もう。

一日の日記を書く。人と話す。二つの料理を同時に作る。旅行プランを立てる。

8. 高齢期うつ病

認知症と混同されることがあるので注意 - 考えることや行動が億劫になり、ボーッと一日

を過ごすことが多くなるなど一見、認知症様。

認知症では自分は健康であると感じていたり、能力低下の自覚がなく、妄想で相手を攻撃することもある。

うつ病の場合、口数が減り、淋しさや悲しさを訴える。分からないことは認め、自分を責める傾向や食欲の減退などが生じることが多い。薬物療法が有効。早く専門医に診断を受けることが必要。

9. 高齢期は第二の成長期

年をとるということは、若いということと同じに、神聖にして美しい使命である（ヘルマン・ヘッセ）

今までに学び培ってきた多くのものを次の世代に繋げる大切な使命を自覚しよう。

家族・友人・地域との繋がりを大切に。地域活動にも積極的に参加しよう。

夫婦でよりよい高齢期を送るために

- ・お互いに尊敬し尊重し合う
- ・相手の気持ちをよく聞く
- ・感謝の気持ちを忘れない
- ・相手の行動時間の邪魔をしない
- ・よくコミュニケーションをとる
- ・家庭内の役割交代を積極的に行う

*引用・参考

「中高年からの介護予防読本」 - すばらしい「老い」を求めて（東京都）

「指導者のための介護予防完全マニュアル」正・続（東京都高齢者研究・福祉振興財団）

（記録 古川 純香）

「良寛と貞心尼」との歌をとおして～心の交流と純愛物語

話をする人：近藤 泰雲
司会者：山崎 修司

話をする人：長野県飯田市出身。東京都立高等学校事務長、全国公立高等学校事務長会の調査・研究・総務の部長を歴任。退職後仏門に入られ、郷里の増泉寺で住職を努められる傍ら、茶道に造語が深く茶道の作法を教えられ、郷里と八王子での半々の生活をされている。

冒頭、話し手から、「今日男性の方は良寛さんに、また女性の方は貞心さんになったつもりで、一時を過ごして欲しい」との話があり、講師が住職をされている増泉寺と良寛さんとの縁、観音堂の建替等に関わる逸話等を披露された後、講師の指導により「良寛さま」の歌を全員で合唱した。その後配布された資料に沿って講話が始められた。

1 「良寛さんについて」

(良寛さんの生い立ち等については、平成14年の第6回生涯学習サロン「大好きな良寛さま」で講話されているので概略を述べる)良寛さんは、越後出雲崎の名主の長男として生れる。父親の以南さんは俳句等が好きで風流人であった。良寛さんは家の跡を継ぎ、父の名代として紛争の処理に当たるが、失敗、出奔し隣町尼瀬の曹洞宗光照寺破了和尚の下で出家し、22歳の時、備中岡山、円通寺・国仙和尚の下で得度。師匠遷化後、行脚し僧侶としての生き方を模索し、最後には乞食(こつじき)しつつ、文学の道を選び49歳で生まれ故郷越後に帰った。

良寛さんは、山中独居の修行に好適な、国上の六畳程の広さの「五合庵」に15年間住み、子供と手毬や、かくれんぼをしたりして、遊びながら子供達の純粋な心を生涯求め続けた。

名利を求め傲慢に走るのを戒め、最低の乞食の生活をしながら詩作する生活を送った。しかし、69歳になった良寛さんの、五合庵での托鉢生活は、体力的に困難になり、与板の小林さんの納屋を改造して住むようになった。

2 貞心尼

俗名「ます」と言い、越後長岡藩御徒士組25石、奥村五兵衛の娘として、寛政10年に生れた。

母親は「ます」出産後肥立ちが悪く間もなく亡くなった。ますは母親の遠縁に当たる柏崎の「お八重」さんに預けられ3才の時実家に戻る。しかし、父親は子連の後添をもらい、ますの居場所はなかった。祖父の隠居部屋に入り浸り、祖父から論語、百人一首、古今和歌集、伊勢物語等の素読を学ぶ。その後、小出の医師、関長温と結婚するが、子宝に恵まれず、また人付き合いが上手に行かず離婚され実家に戻る。

しかし、兄夫婦も子沢山で、縁談を進められ、居心地が悪く「お八重」さんの所に駆け込む。その頃前夫の長温が駆け落ちをしたと言う噂もあり、また亡くなった祖父母・亡母の菩提供養のためと、自分の心の平安を求めて、中浜の閻王寺の心龍尼・眠龍尼の下で出家する。23歳であった。修行7年30歳で、長岡の閻魔堂の庵主となる。

3 良寛さんとの出会い

良寛さんの噂を聞いた貞心尼は、はるばる与板の良寛さんを尋ねるが留守であった。貞心尼は手毬に下記の歌を添えて帰る。

これぞこの ほとけのみちに あそびつつ つくやつきせぬ みのりなるらむ 貞心尼
つきてみよ ひふみよいむな ここのとを とをとおさめて またはじまるを 良寛

良寛さんからの返歌 仏教とはなにか、頭で考えるのではなく、実践である。一つ二つ・・・十までいったら、また、一つから始めなさい、と説いている。

4 始めて良寛さんにお会い出来たのは、それから半年後であった。

貞心尼さんがまとめた「はちすの露」と言う歌集が、明治になってから、柏崎の図書館で見付かり、それで貞心尼さんの存在が解り、良寛さんとの心の交流が解った。

初めて逢い見奉りて、貞心尼の尊厳の念が伺える。

きみにかく あひみることの うれしさも まださめやらぬ ゆめかとぞおもふ 貞心尼
ゆめのように かつまどろみて ゆめをまた かたるもゆめ それがまにまに 良寛

これが夢か、幻か、現実なのかなど、そんな事を考えなくとも、それを見ていること自体が良いのではないだろうか、良寛さんはあるがまま、これが求める所だと思ふ。

いとねんごろなる道の物語に夜も更けぬれば、 歌の道、仏の道の話し色々と話しているうちに

夜が更けてきた。

しろたえの ころもでさむし あきのよの つきなかぞらに すみわたるかも 良寛
むかひみて ちよもやちよも みてしがな そらゆくつきの こととはずとも 貞心尼
貞心尼は、空行く月の話しなどどうでも良い、良寛さんの顔を見て、仏の話や、歌の話しをずっとして
ていたいと言う。

こころさへ かはらざりせば はふつたの たえずむかはむ ちよもやちよも 良寛
心さへ変わらなければ、這う鳶の様にならず、お付き合いをしたいものだ。
この夜ほど貞心尼にとって、夜の明けるのが早く思われたことは、生涯なかったであらう。
尼の若い情熱をひたすら 40歳年上の良寛さんにぶっつけた。初めは押されぎみだった良寛さんも次第
に気持ちが高ぶった様子に見える。

5 久しくお会いすることが、出来なかった折りに

きみやわする みちやかくるる このごろは までどくらせど おとずれなきは 良寛
やまのはの つきはさやかに てらせども まだはれやらぬ みねのうすぐも 貞心尼
貞心尼が「待てど暮らせど、訪れ無きは」と言う便りをもって、「まだ晴れやらぬ、嶺の薄雲」と、
一歩引く所は、貞心尼の微妙な心の表現である。

6 ある夏の日に庵をお尋ねしたけれどもお留守、ただ花瓶に蓮が挿してあった。

きてみれば ひとこそみえね いほりもりて にはうはちすの はなのたふとさ 貞心尼
みあへする ものこそなけれ こがめなる はちすのはなを みつつしのばせ 良寛
点心尼が、お尋ねしたが良寛さんは留守だった、しかしはちすがお堂を守っていた。

良寛さん、留守をしておもてなしも出来なかったが、私の代わりにはちすがお迎えした。

7 良寛さんが亡くなる前年の春、二人が与板で逢ったとき

ある時、与板の里へ渡らせ給うとて、友だちの元より知らせたりけば、急ぎ参でけるに、明日は早や
こと方へわたり給う由、人々名残り惜しみて物語り聞こえ交わしつ打ち解けて遊びけるが中に、君は
色黒く衣も黒ければ、今より烏とこそ申さめと言ひければ、げによく我にふさわしいたる名にこそと
打ち笑い給いながら

いつこへも たちてをゆかん あすよりは からすてふなを ひとつのつくれば 良寛
明日からは、出発すると言うので友達と話をしていたら、良寛さんは、托鉢で方々を回っておられ
るので、色も黒く衣も黒いので、貴方は烏だと言われ、良寛さんは、カア・カアと言って、部屋の中
を舞い喝采を得たと言う話しが伝わっている。

やまがらす さとにいゆかば こがらすも いざないてゆけ はねはよわくとも 貞心尼
もし里に行くのであれば、私も一緒に連れてって欲しいと、貞心尼が言う。

いざないて ゆかばゆかめど ひとのみて あやしめみらば いかにしてまし 良寛
ご一緒に連れ立って行ったとしましょう、そうすると人様が見て、あやしいと見られたら、如何がい
たしましょう。

とびはとび すずめはすずめ さぎはさぎ からすはからす なにかあやしき 貞心尼
からすはからす、僧侶は僧侶、何で人に気を遣わなければならないでしょう。良寛さんは、貞心尼の
情熱に押されぎみのように思われる。

8 良寛さんの最期 亡くなる前年の師走に

師走の末に良寛さんの弟の由之さんよりの便りで、禅師のきみ、ここ暫く痢病を患いたまひけるが、
この頃の寒さに弱らせられ候、今はお命も心もとなしとて、島崎の能登屋から知らせ参り、驚きまみ
らせ候、急ぎ塩ねり坂の雪を凌ぎて詣でたく候、禅尼の君にもお出で被下度願ひ奉り候。 師走 24
日 貞心禅尼御もとに 由之

貞心尼が駆け付けた時、良寛さんは床に座っていた

いついつと まちにしひとは きたりけり いまはあひみて なにおかおもはむ 良寛
相見ただけで、もう言葉なぞ要らないんです。良寛さんは自分の命が幾許もないことが分かっていた。
貞心尼は医者の方に嫁いでいたので、良寛さんのお腹を触って、大きなしこりが出来ていた。これは
もうそう長くはないと思った。

かひなしと くすりものまず いひたちて みづからゆきの きゆるをやまつ 貞心尼
貞心尼は、そう言いながら、薬を調合し、粥等を作り看病をする。

うちつけに いひたつとには あらねども かつやすらひて ときをしまたむ 良寛
急に飯を絶ったのでなく食を取らないと体が楽なので、このまま時の来るのを待ちます

いきしにの さかいはなれて すむみにも さらぬわかれの あるぞかなしき 貞心尼
出家すると言う事は、生死を超越すると言う事であるが、この様な別れがある事が悲しい。

9 正月五日親しい人達に 良寛さんの辞世

かたみとて なにかのこさん はるははな やまほととぎす あきはもみじば 良 寛
道玄禅師の歌に「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪冴えて 涼しかりけり」と言うのが、
この境地を進めると良寛さんの心境になる。非常に素晴らしい歌である。

10 天保二年正月六日 午後四時頃亡くなられ、行年 74 歳であった。

最後に「良寛さま」の歌を全員で合唱し、「今日もよき日でありますように」と言う菜を戴いて講話を終えた。

(記録 近田 正人)

懐かしの映画とその音楽

話をする人：立川 富美代
司 会 者：大高 秀夫

話をする人：服飾デザイン・縫製企画等の会社経営。 青少年育成・社会教育団体指導など幅広く活動。
最近では国際文化交流事業の推進にも努力。 現在、ガールスカウト八王子連合会会長、
八王子フィルハーモニー合唱団団長、八王子フィルハーモニー管弦楽団顧問。

「未成交響曲」

オーストリアの作曲家、フランツ・ペーター・シューベルトの青春期と、彼の名曲「交響曲第8番口短調（未完成）」の制作秘話を描いたラブロマンス。音楽映画、楽聖映画のはしりとなった作品で、シューベルトの名曲の数々をバックに繰り広げられるプラトニックな悲恋劇は美しく切ない映画である。

監督： ヴィリ・フォルスト

音楽： フランツ・シューベルト

演奏： ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/ウィーン少年合唱団/ウィーン国立オペラ合唱団/
ギウラ・ホルファート・ジプシー楽団

CAST： ハンス・ヤーライ マルタ・エッツゲルト ルイーゼ・ウルリッヒ

1933年 ドイツ＝オーストリア作品

映画のストーリーは1822年彼が22歳のとき、小学校の数学の教師をしているときに、作曲をした「菩提樹」の曲を聴いた宮廷吏員に認められ宮廷音楽家となるが、演奏会で自分の作曲をした演奏の失笑を買う。そのころ貧乏の最中で質屋に通い、親切にしてくれる質屋の娘と親密になるが、ハンガリーの貴族から娘の音楽教師を依頼され、その娘と愛情を育むが、親の意思により引き裂かれてしまう。

随所にシューベルトの歌曲が流れ、主題の未成交響曲が流れる。

1828年31歳という若さで亡くなるが、1,000曲もの作曲を残すのだが、特に歌曲は600曲にもものぼる。特に演奏会で聞かせるのではなく、無伴奏でだれにでも歌える、仲間と、個人で楽しめる曲をたくさん残している。映画のなかのロマンスとともに音楽を楽しんで頂きたい。

未成交響曲第8番口短調

シューベルトがこの曲を作曲して送ったのは、知人のヒュッテンブレンナーと言う人であったが、第2楽章までであって、もらったほうも後を待っていたのであったが、その後この作品は忘れられてしまい、1864年に発見されるが、死期40年もたって陽の目をみることになる。なぜ第2楽章までであったかは謎のままであり、完成していない交響曲ということで、未完成という副題がつけられている。しかし曲想はこの上ない美をたたえており、2つの楽章だけで全く完結しているのである。

冬の旅 作品89 菩提樹、野ばら、ミリタリーマーチ二長調
白鳥の歌より D951 セレナード、アベマリア、未成交響曲

セレナード

歌曲王シューベルトの最晩年の歌曲。この美しいセレナード（小夜曲）は全部で14曲からなる「白鳥の歌」の中の第4曲である。なくなる三ヶ月まえにこの曲を作っている。

映画を楽しむとともに、音楽の楽しみは格別で、今回取り上げた「モア」は永遠に残る名曲である。映画は「世界残酷物語」で、非常に残酷な画面が続く。

自然の残酷、人の残酷（死、食物、社会）、芸術の残酷、文化の残酷、野生の残酷等この地球上にある残酷を物語るが、そのなかで、社会の残酷をバックに流れる「モア」を聞いていただく。

音楽：ニーノ・クリマーティ（アカデミー音楽賞にノミネートされる）

（記録 加藤 寛）

井戸端会議～ 国技「相撲」を考える

話をする人：宮崎 浩平
司会者：石井 實

話をする人：1936年八王子市大横町に生まれ、八王子に育つ。日立クレジット(株)(現日立キャピタル)退職後、郷土史を学ぶ。八王子古文書探る会、21古文書を読む会、古文書所在調査員。昨年はプロ野球70周年に合わせプロ野球の歴史をテーマとした。

大相撲は明治の後期から日本の国技と称されてきた。現在は野球、サッカーが若いファンを獲得し、人気のあるスポーツであるが相撲も時代を通して変りない根強い人気を保っている。「相撲の技」妙味や勝負の行方に対する興味、スポーツの要素が大衆の心をひきつけている。初めて相撲に接した外国人の多くがその様式美にひかれると言うように相撲は西洋のスポーツ観が入る以前の「芸能」「神事」「儀礼」の要素を色濃く残した日本古来の伝統を伝えている。

1. 相撲の起源

相撲の歴史は人類史古くから始まる。イランの五千年ほど前のバビロニアの遺跡から、青銅の相撲人形、しかも締込みをした男が四つに取り組んでいる形を表わしたものが出土したり、エジプトのベニ・ハッサンの横穴の壁画に描かれた相撲図もある。

東洋でも、仏教経典のなかに法華経安楽行品に「相撲」の文字が、涅槃経には「力士」の文字が表われている。

「すもう」は「相撲」の文字とともに「角力」と書かれ力くらべに由来するが、その他「すまふ」は「すまひ」から「相舞」と記せられる。舞は一人ずつ演じ、相撲は二人で行うものではないかと思われるが、例えば愛媛県の大山祇神社における初夏の御田植祭で一人で目に見えない精霊を相手に相撲の形を行うことは「舞」である。

2. 日本の相撲

日本の相撲の歴史は古く、神代において古事記に記せられている。武御雷神(たけみかずち)と武御名方神(たけみなかた)が出雲の伊那佐の小浜で力くらべを行った。

高天原系の雷(大和方)が出雲系を破り、国譲りを成就するきっかけとなった。出雲と大和の交渉を物語る神話として大和王朝の統合と関係することが相撲史の第一ページである。丁般的にはそれから時代が下り、出雲の土師部の祖とされる能見宿祢が大和の強力無双の当麻蹶速と相撲をとり、能見宿祢が突き、押し、脚を使って蹶速の腰を折ったことが有名な故事とされている。日本書紀にはこの日が推仁天皇七年七月七日と記され相撲の起源となっている。その後、平安、鎌倉、室町時代を通して相撲の故事は多い。戦国時代には織田信長が安土で武士に相撲を取らせたとか、一乗谷の朝倉氏は力士隊を所有していた。

3. 江戸相撲

江戸の勸進相撲は「勸進相撲願控」によると寛文年間頃から始まるとある。場所は目黒、白金、小石川の氷川神社や浅草の観音様その他で、その後深川八幡、浅草御蔵前八幡、芝明神、神田明神、本所回向院が主な興行地となった。力士は各大名に抱えられており、慶安3年の「支配帳」には8人扶持、70俵の力士や3人扶持20俵の力士が上げられており、平均すると5人扶持位であった。大名としては、尾州の徳川、高松の松平、平戸の松浦、鳥取の池田、熊本の細川、姫路の酒井、奥州の南部、阿波の蜂須賀、出雲の松平等の諸藩主であった。

江戸相撲は宝暦以降、3月、10月を定期的な場所とした。つまり本場所である。勸進相撲の事務をとり、渉外的な斡旋をすとか、力士の養成などに当たる者を年寄あるいは頭取といった。これらの年寄で構成する今の協会に相当したものを「相撲会所」と称した。今でも、糸川、友綱、雷、境川、玉垣、伊勢の海等の名称は残っている。

4. 横綱谷風、小野川の登場

時代は天明から寛政と変わり、角界は大きく前進する。天明年間から続いた谷風と小野川の対戦は三都の大相撲を隆盛にみちびき黄金時代を迎える。谷風は仙台藩、小野川は久留米藩の抱え力士。両雄の対決は庶民だけではなく諸大名、そして将軍もが注目する熱狂ぶりであった。寛政元年(1789)11月、谷風と小野川両名に横綱免許が下った。横綱は力士最高の称号であり、現在まで68代を数える。寛政3年6月、11代将軍徳川家斉の上覧相撲における結びの谷風と小野川の対戦は「気負け」という奇妙な決まり手で勝負が決着した。結びを裁いた吉田追風はこの一番で大いに名を上げ、以後相撲界の家元として「相撲の家」とし現在まで名を残している。寛政以降、谷風の急逝、小野川の引退

により雷電の一人舞台になる。史上最強と言われた雷電は横綱の免許を受けることなく終わったことは何故であろう。

5．八王子が生んだ八光山権五郎伝説

「宝暦6年、八光山権五郎といふ力士の発願にて勧請せり。永福稲荷社にて年々8月2日相撲あり、元横山村持」と新編武蔵風土記稿にある。八光山権五郎は実在して居た人物なのか。風説として、八光山権五郎は実在していたと言われている。

武州八王子横町宿にて生糸問屋、島屋を営業（徳川家槍術指南小島平八郎が祖）。島屋に男の子に恵まれなかったので、取引先上州の豪農から権五郎を養子としてもらいうける。商売上手、「相撲」の興行も大いに繁盛、京都や大阪へも遠征しどの場所にも常に上位にあり、天下一を目指す。永福稲荷を勧請、「相撲」と「商売」に願をかけ、京都伏見稲荷より「正一位」贈られる。「権五郎」伝説には大力無双、本坊（山田の広園寺）の鐘楼普請のとき男鐘、女鐘を同時に抱え上げ軽々と運んだ。又、権五郎の大力が世にひびき魔利支天力士といわれた。江戸相撲においても大関を張ったと言われているが年鑑には記載はなく、文政年間に同姓同名の力士が居るが時代的に本人ではない。

6．古今東西、人気力士の四股名について

江戸時代には看板力士に特に強そうなシコ名をつけた。仁王堂仁太夫、鬼勝象之助、大碓難右衛門。又実力大関の雷電為右衛門、鬼面山、鉄石、荒馬、稲妻雷五郎、明治には大砲万右衛門、大正、昭和では太刀光電右衛門は強烈な印象付けるシコ名である。横綱双葉山は恩顧者、前田山は手術治療を行ってくれた前田和二郎医博の姓よりシコ名としている。シコ名の中でも出身地の名前は圧倒的に多い。梅ヶ谷、常陸山、太刀山、栃木山、九州山、西の海、千葉ヶ崎、安芸ノ海、名寄岩の名力士が居る。時代を映すシコ名として、明治の文明開化の頃は、電気灯、器械船、片福面（かたおかめ）日清日露戦争においては日本海、大砲、太平洋戦争中は神風が有名。

変ったシコ名。

一字で「九」（いちじ九）、「い」を（かなかしら）、「京」を（かなどめ）、「一」を（かずはじめ）、「鉄」を（くろがね）、「鉾」を（あらがね）、「銅」を（ねりがね）その他、鬼神、鬼小島、鬼風、麒麟児、大蛇山、竜門、山猫、猫又等が存在。

（記録 宮崎 浩平）

第9回野外サロン
「新緑の武蔵野に星と文学のロマンを探る」

「新緑の武蔵野に星と文学のロマンを探る」との副題をつけて、第9回野外サロンが、5月12日(木)に実施された。一般44名、プロバス会員40名、計84名が2台のバスに分乗し、定刻にJR八王子駅南口を出発した。以下がその行程。

八王子駅南口(8:15発) 蘆花恒春園(9:10~9:50) 世田谷文学館(10:00~11:00) 深大寺(12:00~13:00) 深大寺門前で昼食 国立天文台(13:40~14:30) 京王フローラルガーデン・アンジェ(15:00~16:30) 八王子駅南口(17:30着)

都立蘆花恒春園：

武蔵野の面影を残す雑木林の中に、徳富蘆花・愛子夫人の旧宅、墓所がある。また遺品・写真などを収蔵した記念館があり、ロシアの文豪トルストイに心酔し、訪問の記録、交換した手紙もあった。庭の一角には、八王子から贈られたお地蔵さんがあった。

世田谷文学館：

常設展では、世田谷区出身・在住もしくはゆかりの作家達(徳富蘆花、武者小路実篤、志賀直哉、石川達三、石坂洋次郎、北原白秋、斉藤茂吉、大岡昇平、遠藤周作、平林たい子、林芙美子、など)の原稿、書簡、日記、写真などが展示されている。今回は、特別展「宇野千代展」が開催されており、平成8年に98歳の天寿を全うするまで、多くの小説・随筆を書き、文学界の第一線で活躍した、宇野千代の人生を紹介していた。

深大寺：

深大寺そばの元祖、嶋田家で昼食。食後、深大寺や水生植物園を自由散策。水生植物園は武蔵野の伏流水が湧き出した湿地に造成した植物園で、木道の散策路を巡らせてある。湿地の脇の小高い丘を登ると、深大寺城址があり、空堀が現存し、昔を偲ばせている。

国立天文台：

一行は4班に分かれ、それぞれ4人の専門家に引率され、順路に従って下記の施設を見学した。

- 1 太陽系ウォーキング：およそ100mの距離の道路わきに、太陽から土星まで6つの惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星)の模型が並んでいる。惑星間の距離は140億分の1、惑星の大きさは14億分の1の縮尺で作られている。天王星・海王星・冥王星は、この縮尺に入りきらないので、土星の先にまとめて展示してある。宇宙の構造を実感させ大変興味深かった。
- 2 「太陽分光写真儀室」：「太陽系ウォーキング」の終わった所にある。建物は地上5階、地下1階の塔で、塔が望遠鏡の筒あたり、塔全体が望遠鏡となっており、「塔望遠鏡」とも呼ばれている。また、ベルリンの天体観測所の「アインシュタイン塔」と同じ研究目的に造られたことから、「アインシュタイン塔」とも呼ばれている。
- 3 大赤道儀室(天文台歴史館)：鉄筋コンクリートの2階建て。焦点距離10mに及ぶ屈折望遠鏡を、すっぽり収めた木製ドームは、木造船の造船技術で作られている。望遠鏡は屈折望遠鏡として最大の口径をもっており、レンズはツァイス製。床は、望遠鏡を操作する人の身長に合わせて、上げ下げ出来るようになっている。床下には巨大な鉄の錘が三箇所があり、重さを利用して手動で操作した。主に土星や星の位置観測に使われていたが、現在は使われていない。今は、この建物は天文台の歴史に関する資料の展示に使われている。
- 4 展示室：ハワイの「すばる」とかその他の地域にある天文台とか観測施設を紹介すると同時に、最近の研究プロジェクトを紹介している。現在、宇宙の果ては137億光年と言われているが、「すばる」望遠鏡は128億光年まで見られるので、これを使って、宇宙の果てが何処なのかを見ようと挑戦している。もし見られれば、宇宙の始めの様子が分かり、宇宙がどうやって出来たかを解明する手がかりになる。「すばる」は、申し込み手続きをして見学できるようになっている。また、別のプロジェクトでは、電波望遠鏡で星を見ている。星は生まれる前は光っておらず、赤外線という電波を出しているため、赤外線を捉えることの出来る望遠鏡で、星の卵の状態を観測でき、星が生ま

れる時の様子を知ることが出来る。日本とは地球の反対側にあるチリの、標高 5,000mの高地に、電波望遠鏡の集団を造る計画。望遠鏡が大きければ大きいほど解像力が上がるが、大型化には限界がある。そこで、或る原理を応用して解像力を高める。それは、二つの電波望遠鏡を間隔を置いて並べると、その間隔と同じ直径を持つ望遠鏡を作ったに等しい解像能力を得られるという原理。二つだけではなく、複数の望遠鏡をサークル上、または色々な配列に並べ、更に解像力を上げる。それには広大な敷地を要する。2010年頃、日本、アメリカ、ヨーロッパの共同で建設開始予定。また、「たま300」と言うプロジェクト。地下に東西南北、それぞれ300mの真空のトンネルを掘り、その中にレーザー光線が通っている。この研究の目的は、アインシュタインの考えている「重力波」の存在を観測できればということに挑戦している。いまだに世界中何処でも観測されていない。

5 第一赤道儀室：「太陽系ウォーキング」の出発点そばにある。この建物は、鉄筋コンクリート造りの平屋建てで、東京帝国大学が1921年（大正10年）に造った。ツァイス製望遠鏡が設置されており、1939年（昭和14年）から60年間、太陽の黒点を手書きでスケッチして、数を観測していた。その結果、黒点は約11年の周期で増減していることが分かっている。太陽の表面温度は約600度で、赤く見えているが、6,000度より1,500度くらい低い部分は黒く見え、これが黒点。黒点の数が多き時は太陽の活動が活発な時、少ないときは不活発。現在は、黒点の観測は写真で、世界各地で行われており、その記録は国際的な組織一箇所に集められ、集計され配布されている。

こちら三鷹の天文台は、現在、望遠鏡による天体観測は行っておらず、野辺山とかハワイの「すばる」から送られてくる観測データを、こちらにある大きなコンピュータを使って分析・処理をしている。また、三鷹には大型望遠鏡用カメラの研究開発の施設もある。また、広大な敷地はまるで森林の中のように、背の高い樹木で覆われているが、みな植林をしたものだと聞いて、感心させられた。

京王フローラルガーデン・アンジェ：

旧京王百花苑をリニューアルした、本格的欧風庭園。「緑豊かで整備されたくつろぎの空間を提供すると共に、植物、ガーデニングなどに関する質の高い情報を発信する」ことをモットーにしている。園内には、「ウォーターガーデン」「マグノリアガーデン」「ハーブガーデン」「ローズガーデン」「ボーダーガーデン」などがある。入り口で全員の記念写真を撮った後、3班に別れ、3人のお嬢さんに百花繚乱の園内をくまなく案内してもらった。

八王子駅南口：大変感じの良い運転手さんの安全運転で、つつがなく八王子に帰着した。

（記録 矢崎 安弘）